

# 射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ

— 高島A 遺跡本発掘調査・土合地区分布調査他 —

2011年

富山県射水市教育委員会



上 高島A遺跡遠景（北から）

下 高島A遺跡 6地区1号溝出土 弥生土器

卷首図版 2



高島 A 遺跡 6 地区出土遺物（弥生時代）

# **射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ**

**— 高島A遺跡本発掘調査・土合地区分布調査他 —**

2011年

富山県射水市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、平成21年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 分布調査・試掘調査・本発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。
- 3 対象となった埋蔵文化財、並びに調査に関する位置・原因・面積・期間等は各章に記した。
- 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会文化・スポーツ課主任 田中 明・主任 金三津英則が担当した。
- 5 発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）  
【現地調査】 魚 三男・尾森光正・木谷和夫・笠林秀男・三箇栄一・鈴谷邦宏・濱野 勇  
番口外志・牧野 實・六渡尚正（以上射水市シルバー人材センター）  
【整理作業】 高瀬直子・開 一美・堀埜実津子・吉沢泰子
- 6 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

## 凡　　例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系第VII系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。  
SD：溝 SE：井戸 SK：土坑
- 3 遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1/4を基本とするが、縮尺の異なるものはスケールとともにその縮尺を表記した。
- 4 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
- 5 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
- 6 第4章第1節における発掘地区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりとした。  
●：縄文土器 □：弥生土器 ▽：土師器 ▲：須恵器 ■：珠洲 △：中世土師器  
○：中世陶磁器 ◎：近世陶磁器 ○：木製品 ◆：石製品 ★：金属製品 ◇：鉄滓  
☆：その他（近代以降） T：トレンチ
- 7 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。  
■■■：須恵器・珠洲 ■■■：赤彩処理 ■■■■：煤・炭化物

# 目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
第2章 高島A遺跡本発掘調査 .....	3
第1節 調査に至る経緯 .....	3
第2節 調査の概要 .....	4
第3節 遺構と遺物 .....	4
第1項 本発掘調査3地区 .....	4
第2項 本発掘調査4地区 .....	4
第3項 本発掘調査5地区 .....	8
第4項 本発掘調査6地区 .....	8
第4節 総 括 .....	13
第3章 土合地区分布調査 .....	15
第1節 調査に至る経緯と調査の経過 .....	15
第2節 調査の方法 .....	16
第3節 調査の概要 .....	16
第1項 基本層序 .....	16
第2項 遺構・遺物及び地形の状況 .....	16
第3項 歴史的環境と調査のまとめ .....	18
第4章 その他の遺跡調査 .....	20
第1節 平成21年度試掘調査概要 .....	22
1. 今井二島遺跡 .....	22
2. 本田天水遺跡 .....	22
3. 十社宮遺跡 .....	23
4. 赤井遺跡 .....	23
5. 烏帽子形遺跡 .....	24
6. 本江東遺跡 .....	24
7. 水上・木開発遺跡 .....	25
8. HS-04遺跡 .....	25
9. 高島A遺跡 .....	26
10. 安吉遺跡 .....	26
11. 針原西遺跡 .....	27
12. 今井南遺跡 .....	28
13. 黒河尺目遺跡 .....	28
14. 加茂社遺跡 .....	29
15. 黒河西山遺跡 .....	29
16. HS-04遺跡 .....	30
17. 朴木C遺跡 .....	30
18. 本田畠田遺跡 .....	31
19. 高島A遺跡 .....	31

## 卷首図版目次

- 卷首図版1 高島A遺跡遠景 6地区1号溝 弥生土器出土状況（弥生時代）  
卷首図版2 高島A遺跡6地区出土遺物（弥生時代）

## 挿図目次

第1図	射水市の位置	1
第2図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図	発掘区位置図【高島A遺跡】	3
第4図	遺構実測図【高島A遺跡3地区】	5
第5図	遺構実測図【高島A遺跡4地区】	6
第6図	遺物実測図【高島A遺跡3・4地区】	7
第7図	遺構実測図【高島A遺跡5地区】	9
第8図	遺構実測図【高島A遺跡6地区】	10
第9図	遺物実測図【高島A遺跡5地区】	11
第10図	遺物実測図【高島A遺跡6地区】	12
第11図	中央区両溝位置図	13
第12図	調査対象地及び周辺の遺跡	15
第13図	分布調査の結果	17
第14図	試掘調査位置図	21
第15図	遺物実測図【針原西遺跡・H S - 0 4 遺跡・朴木C遺跡】	32
第16図	遺物実測図【朴木C遺跡・本田畠田遺跡】	33

## 表目次

第1表	出土遺物観察表【高島A遺跡】(1~15)	13
第2表	出土遺物観察表【高島A遺跡】(16~68)	14
第3表	平成21年度埋蔵文化財発掘調査・観	20
第4表	出土遺物観察表【試掘調査】(1~36)	34

## 図版目次

図版1	遺構全景・溝・土坑	[高島A遺跡3地区] SD03 SD04 SK02
図版2	遺構全景・溝・土坑・遺物出土状況	[高島A遺跡4地区] SD02 SD03 SD09 SK08
図版3	出土遺物 土器・金属製品	[高島A遺跡3・4地区]
図版4	遺構全景・溝・土坑	[高島A遺跡5地区] SD01 SD02 SK05 SK06
図版5	出土遺物 土器・木製品・鉄滓	[高島A遺跡5地区]
図版6	遺構全景・溝	[高島A遺跡6地区] SD01 SD03 SD06 SD07
図版7	遺物出土状況	[高島A遺跡6地区] SD01 SD06 SD07 SK09
図版8	出土遺物 土器	[高島A遺跡6地区]
図版9	遠景・重機掘削・土層断面	[上合地区分布調査]
図版10	試掘調査／出土遺物	[加茂社遺跡]
図版11	試掘調査／出土遺物	[本田畠田遺跡]
図版12	試掘調査	[針原西遺跡]
図版13	試掘調査	[朴木C遺跡]
図版14	試掘調査出土遺物	[針原西遺跡・朴木C遺跡]

# 第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のはば中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.18km<sup>2</sup>である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0~140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万5千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万~8千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は繩文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが濾み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に疊と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火碎岩層が堆積している。鐵治川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境で、先人達は集落を形成していくものと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A~D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴住居や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営われてきたと考えられている。

高島A遺跡は、庄川右岸に形成された標高約1.5m前後の沖積低地に立地し、弥生・古墳時代を主体とする遺跡である。平成9年度本発掘調査では弥生時代中期の周溝をもつ平地式建物2棟と方形周溝墓1基が確認されている。また平成14年度試掘調査では、遺跡北半分の遺構分布範囲を確定している。平成17年度には、土地区画整理事業に伴う本発掘調査が行われ、弥生時代後期~古墳時代前期、鎌倉時代~室町時代の遺構・遺物が確認され、全国初となる装飾性に富んだ石製品も出土している。

土合地区は、射水市の南西部に位置する東西約2.8km、南北約0.9kmの水田地带である。文献資料での「土合」の地名は、近世初期に現れるが、周辺の広上・小泉・上条・下条・島は「浅井郷五ヶ村」と称され、中世以前から存在した集落である。庄川に隣接した当地区では、近世以降、度々の洪水による荒廃と再開発を繰り返しているが、大部分が埋蔵文化財の未調査区域であったため、これまで埋蔵文化財包蔵地は確認されていない。



第1図 射水市の位置



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

## 第2章 高島A遺跡本発掘調査

### 第1節 調査に至る経緯

平成13年度、新潟市（現射水市）鏡宮地区における土地区画整理事業計画の照会を受けた。平成14年度、事業計画地が埋蔵文化財包蔵地（高島A遺跡）に含まれることから、遺跡保護と工事計画の調整を図る目的で試掘調査を実施した。その結果、計画地南側半分の約25,000m<sup>2</sup>を中心に弥生時代中期から古墳時代前期の遺構・遺物を確認した。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、本発掘調査による記録保存が必要との判断を示した。平成17年度、造成工事に先立ち計画道路部分の3,212m<sup>2</sup>において本発掘調査を実施した。平成19年度、分譲が開始され宅地49区画で遺跡の保護措置が必要となり、工事が地下遺構に与える影響を判断しながらの対応となった。平成19年度1地区、平成20年度2地区、平成21年度は3～6地区の4区画で本発掘調査を完了し、残り43区画は平成22年度以降の対応となった。



第3図 発掘区位置図 [高島A遺跡]

## 第2節 調査の概要

調査区は造成工事により山砂の盛土がなされていたため、まず重機で盛土と旧水田耕作土を除去し、その後に作業員を投入して、遺構検出、遺構掘削、遺物取り上げを順次入力で行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影（35mm・6×7中判・デジタル）や遺構概略図（1/100）、遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成等の記録図化作業を実施した。調査終了後は、埋め戻しを行い現状復帰を図っている。その際に住宅基礎工事の改良掘削深度より深い遺構が検出された地区では、不同沈下防止のため新たな山砂を充填し重機で踏み固めている。

調査区の基本層序は1～3層に分層される。上から1層は山砂の造成盛土、2層は山砂の下の旧水田耕作土、3層は灰黄色（2.5Y7/2）粘質シルトの地山である。遺構は全て3層から掘り込まれている。

## 第3節 遺構と遺物

### 第1項 本発掘調査3地区

#### 3号溝（SD03、第4・6図、図版1・3）

調査区中央部に位置する北西—南東方向の溝である。途中で4号溝と合流し、両端とも調査区外へのびる。全長約9.5m、幅70cm～130cmを測り、覆土は黒褐色シルトに炭化物が混在する。遺物は弥生土器・珠洲が出上している。第6図4は弥生土器の器台脚部片。7は口縁部を方頭に呈する珠洲甕。

#### 4号溝（SD04、第4・6図、図版1・3）

調査区中央部に位置する幅120cm～150cm、深さ15cm～30cmの南北溝である。北端は調査区外へのびるが、南端は3号溝と合流する。切り合い関係は判然としない。覆土は黒褐色シルト又は黄灰色シルトが堆積する。遺物は弥生土器・緑色凝灰岩剥片・珠洲が出上している。

#### 2号土坑（SK02、第4図、図版1）

1号土坑の東側に隣接する楕円形土坑である。規模は長軸120cm、短軸90cm、深さは最深で14cmを測る。断面は逆台形を呈し、覆土は黒褐色シルトが堆積する。遺物は弥生土器・緑色凝灰岩剥片・鉄石英剥片が出上している。

### 第2項 本発掘調査4地区

#### 2号溝（SD02、第5・6図、図版2・3）

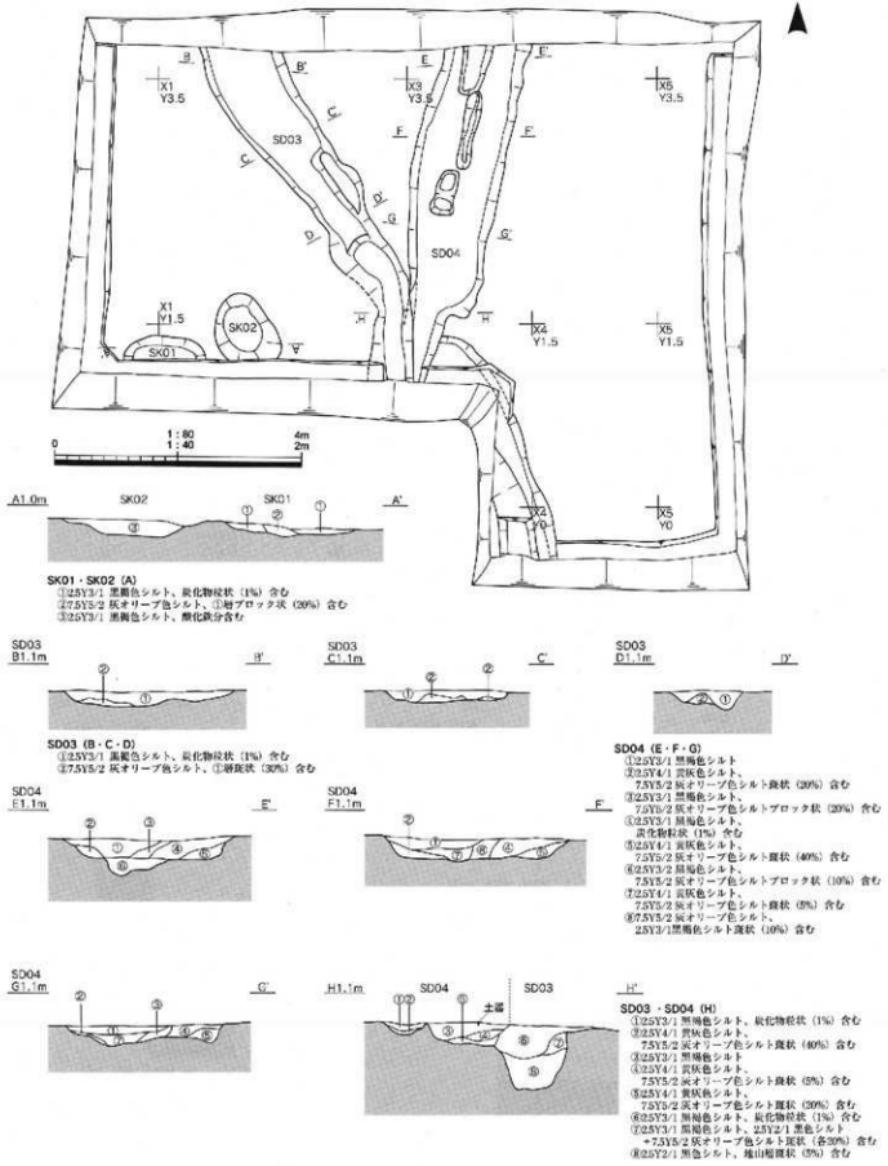
調査区中央部に位置し、北西—南東方向に向けて直線的に流れ、両端とも発掘区外へのびる溝である。幅114cm～190cm、深さ25cm～34cm、全長約6.5mを検出。覆土は上層に黄灰色シルト、下層に黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器（古墳時代初期）・須恵器・珠洲・煙管が出土している。第6図26は2.6cm幅の原体に卸目16条を施す珠洲片口鉢である。27は火皿が円形の煙管首部である。

#### 3号溝（SD03、第5・6図、図版2・3）

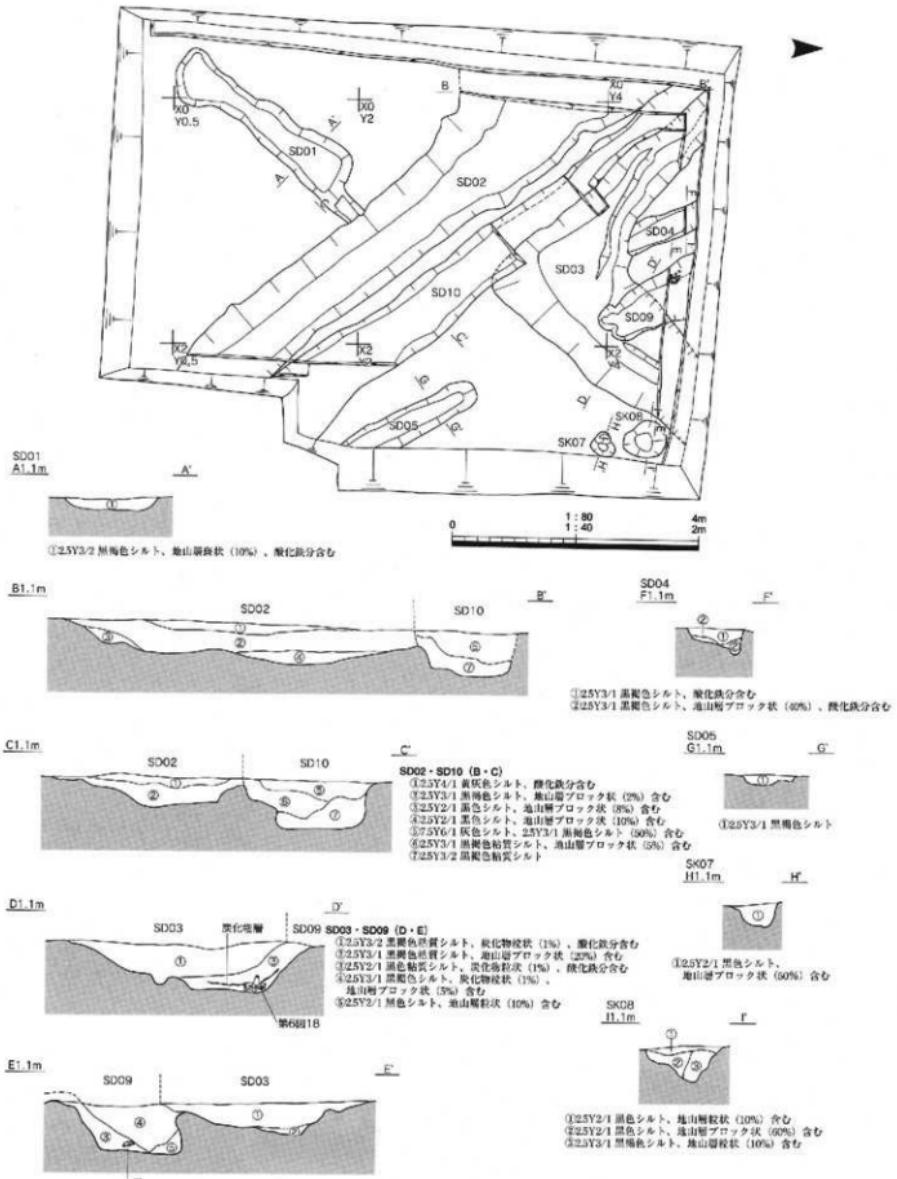
調査区の北端部に位置する幅60cm～160cm、深さ約25cmの溝。中央付近で、ほぼ直角に曲がり、両端とも調査区外へのびる。古墳時代初期の土師器が出土している4号溝・9号溝を掘り込んでいるため、時期はより新しい。遺物は土師器（古墳時代初期）・須恵器・唐津・木札が出土している。

#### 9号溝（SD09、第5・6図、図版2・3）

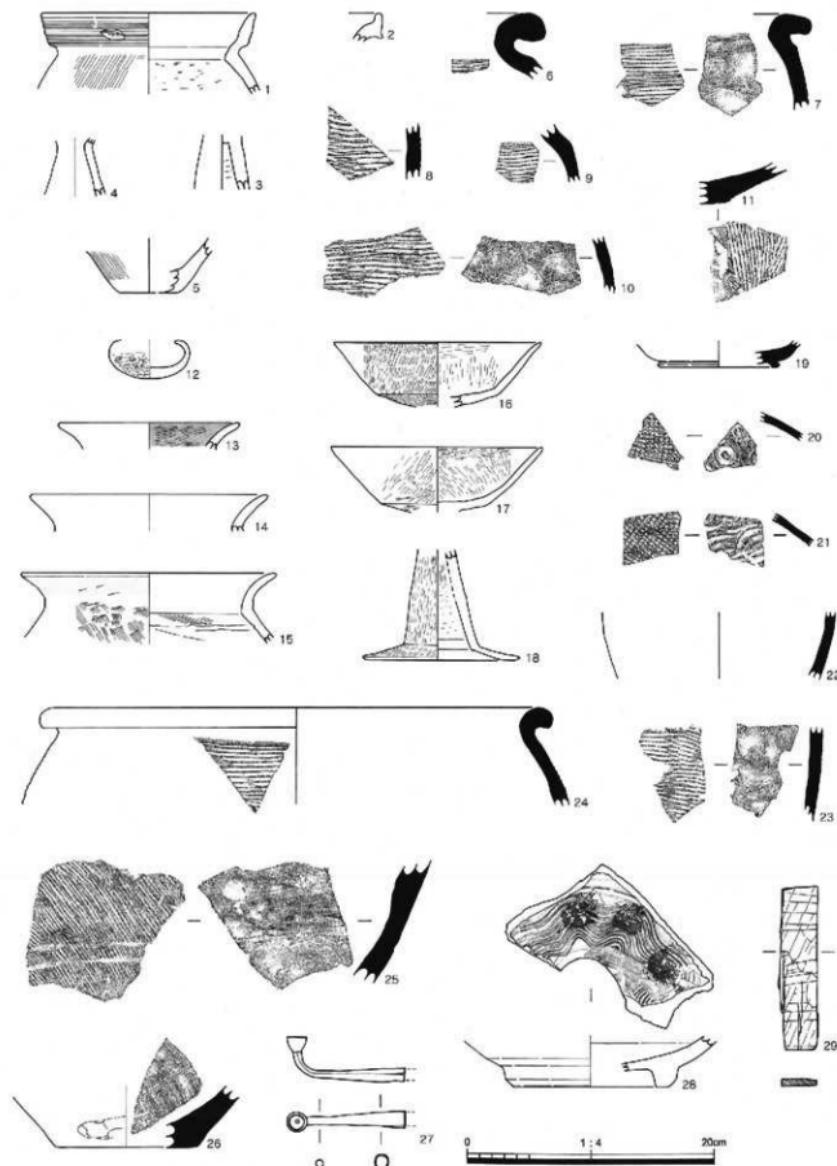
4号溝の東側に並行する全長約1.2mの溝である。断面は概ね逆台形を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。3号溝によって破壊されているため、新旧関係はより古いと考えられる。遺物は古墳時代初期の土師器が出土している。第6図12はミニチュア甕である。13～15は「く」の字状口縁部の甕。16～18は高坏の坏部・脚部である。



第4図 造構実測図 [高島A道路3地区] (1/80, 断面図1/40)



第5図 遺構実測図〔高島A遺跡4地区〕(1/80、断面図1/40)



第6図 遺物実測図〔高島A遺跡3・4地区〕(1/4)  
 3地区: SD03 (4・5・7・8) SD04 (9・10) 包含層 (1・3) 表土 (2・6・11)  
 4地区: SD02 (22~27) SD03 (21・28・29) SD09 (12~18) 包含層 (20) 表土 (19)

### 第3項 本発掘調査5地区

#### 1号溝 (S D01、第7・9図、図版4・5)

調査区東側に位置する南北方向の溝である。全長約9mを検出し、両端とも調査区外へのびる。北端は平成20年度調査の2地区1号溝へと繋がる遺構となる。断面は逆台形を呈し、覆土は炭化物を含む褐灰色粘質シルトが堆積する。幅約3.2m、深さ約0.7mを測り、溝底からは湧水が確認できる。遺物は土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・土鍤・鉄滓・木札が出土している。第9図30~33は土師器、古墳時代初期のものである。35はコの字状に外反する長頸をもつ珠洲甕、13世紀前半のもの。51は2.4cm幅の原体に卸目11条を施す八尾すり鉢か。54は管状土鍤。55は椀型状鉄滓で重量355gである。

#### 2号溝 (S D02、第7・9図、図版4・5)

1号溝西側に並行する幅70cm~186cm、深さ10cm~50cmを測る南北方向の溝。全長約10mを検出し、両端とも調査区外へのびる。北端は平成20年度調査の2地区2号溝へと繋がる遺構となる。遺物は土師器（古墳時代初期）・珠洲・青磁が出上。第9図52は鏡蓮弁文を施す青磁碗、南宋龍泉窯のもの。

#### 5号土坑 (SK05、第7・9図、図版4・5)

調査区北西端に位置する円形土坑である。規模は直径約2m、深さは62cmを測る。底面での標高が0.2mで地下水が自噴するため、素掘り井戸とも考えられる。遺物は土師器（古墳時代初期）・珠洲が出土。1号溝出土の珠洲片と接合したため、同時期の遺構である。

### 第4項 本発掘調査6地区

#### 1号溝 (S D01、第8・10図、図版6~8)

調査区東側に位置する幅66cm~110cm、深さ約32cmを測る北西~南東方向の溝である。全長約5.5mを検出し、北端は調査区外へのびる。覆土は酸化鉄分を含む褐灰色又は灰黄褐色粘質シルトが堆積し、下層には明瞭なラミナが確認できる。遺物は弥生土器が出上。第10図57は口縁下端部に備状具で刻みを入れ、外向に縁が付着している弥生土器甕である。時期は弥生時代中期後半のもの。

#### 3号溝 (S D03、第8・10図、図版6・8)

調査区南東端に位置する全長1mの溝。南端は調査区外へのび、北端は一部1号溝と交わるが、切り合いは判然としない。遺物は弥生土器が出上。第10図59は直線文・連弧文・磨消し縄文を施す弥生土器壺。長野県山野市栗林式系統の土器とみられるが、胎土に雲母がみられないため模倣した在地産である。

#### 6号溝 (S D06、第8・10図、図版6~8)

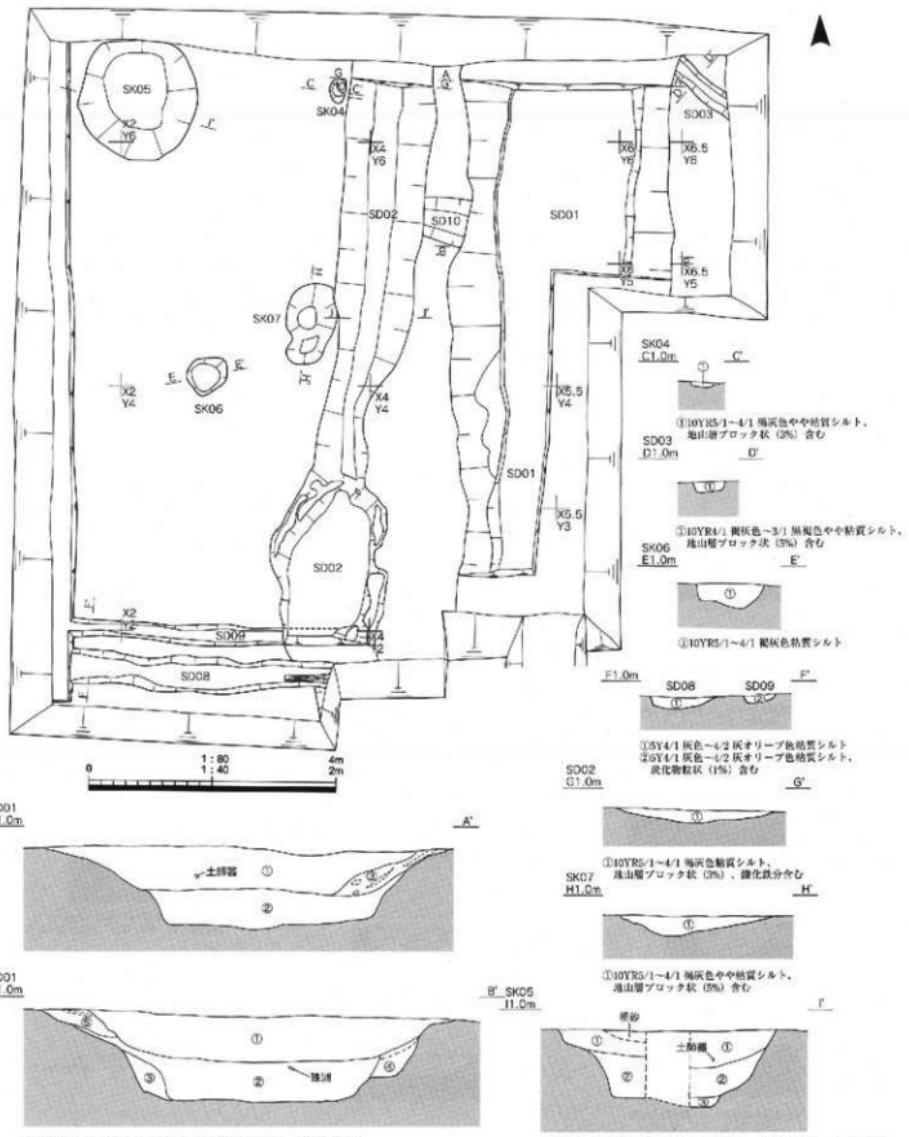
調査区中央部に位置し、隅丸方形状に廻る溝である。幅36cm~84cm、深さ5cm~17cmを測り、全長6.9mを検出した。東端は1号溝によって破壊されているが、南端は調査区外へのびる。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出上。第10図61は口縁下端部に刻み、内面に羽状文を施す甕であり、弥生時代中期後半のもの。62は胸部がソロバン玉状で、器高21cmを測る壺。

#### 7号溝 (S D07、第8・10図、図版6~8)

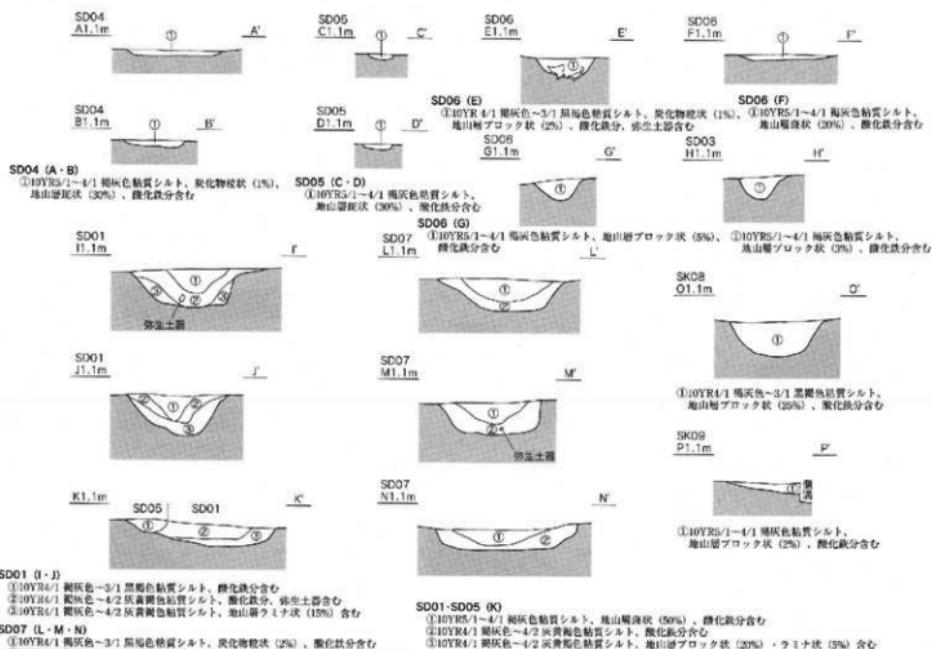
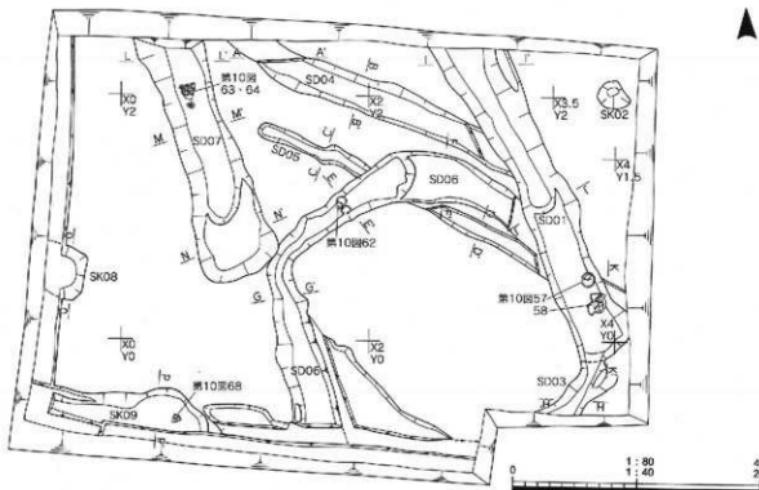
1号溝の西側に約4mの間隔をおいて並行する溝。形状や覆土は1号溝とはほぼ同じで、全長約4mを検出した。北端は調査区外へのびる。遺物は弥生土器が出上している。第10図63・64は同一個体の長頸甕であろう。65は上下に穿孔を施すミニチュア土器。

#### 9号土坑 (SK09、第8・10図、図版6~8)

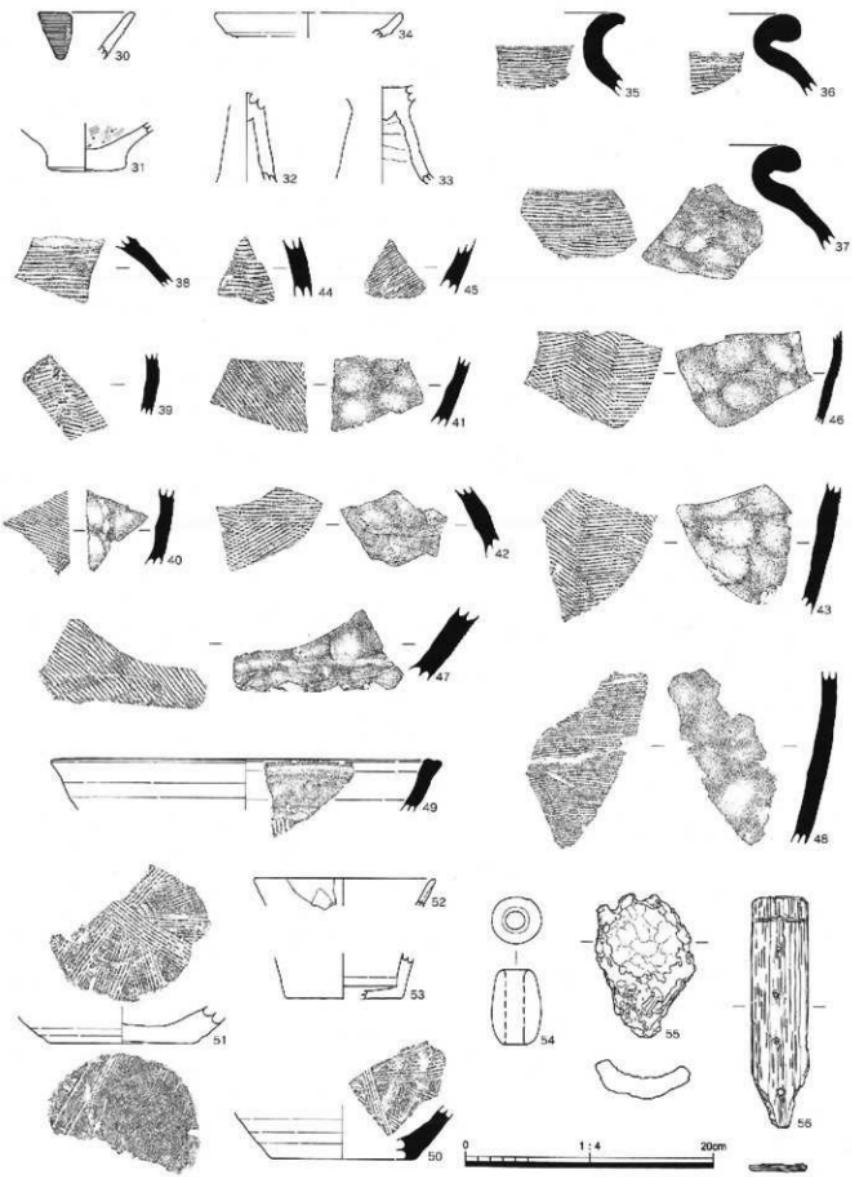
調査区西端部に位置する土坑、深さは最深で30cmを測る。調査区外へのびるため正確な外形は不明である。覆土は酸化鉄分を含む褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出上。第10図68は口径16.6cmを測る高坏の坏部である。



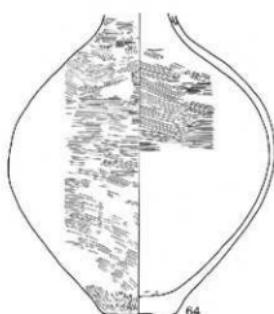
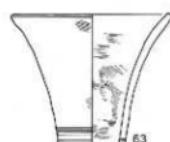
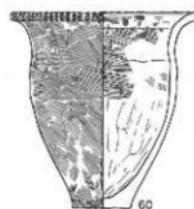
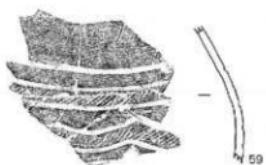
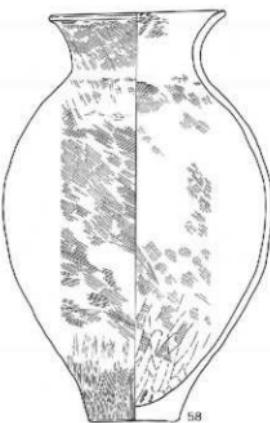
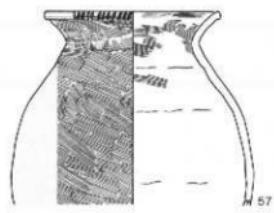
第7図 運構実測図 [高島A道路5地区] (1/80, 断面図1/40)



第8図 邊構実測図〔高島A遺跡6地区〕(1/80, 断面図1/40)



第9図 遺物実測図〔高島A遺跡5地区〕 (1/4)  
 SD01 (30~33・35~43・49~51・53~56) SD02 (44・46・52) SK05 (34・47・48) 表土 (45)

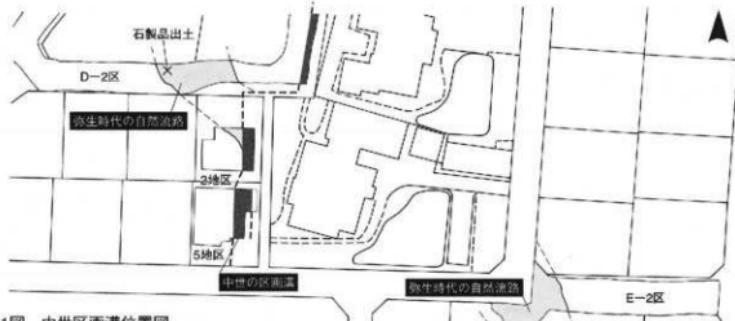


第10図 遺物実測図〔高島A遺跡6地区〕(1/4)  
SD01 (57・58) SD03 (59) SD06 (60~62) SD07 (63~66) SK02 (67) SK09 (68)

## 第4節 総 括

高島A遺跡は、平成14年度から土地地区画整理事業や個人住宅建築に伴う発掘調査が継続的に実施されており、過去の調査によって弥生～古墳時代、鎌倉～室町時代の2時期の集落跡が確認されている。平成21年度調査において、過去の調査で確認した遺構へ繋がるものを検出している。5地区1号溝は、規模や存続時期が一致している2地区1号溝へと繋がり、途中で東側・北側へクランクして平成17年度D-2区1号溝へ続く一連の遺構と考えられる。覆土からは珠洲・八尾・瀬戸美濃・青磁等が出土しており、人為的に掘削した溝によって区画された在地領主等の屋敷地の存在が想定できる。

年々増加する発掘調査により、遺跡の様相が少しずつ明らかになることに今後も期待したい。



第11図 中世区画溝位置図

## 参考文献

- 金三津英則他 2006年「高島A遺跡発掘調査報告書－統合高島地区画整理事業に伴う発掘調査－」射水市教育委員会  
 金三津英則他 2006年「作道遺跡発掘調査報告－市松木作道築改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－」射水市教育委員会  
 金三津英則他 2007年「高島A遺跡発掘調査報告－射水市立新浜南小学校用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－」射水市教育委員会  
 田中 明他 2010年「射水市内遺跡発掘調査報告Ⅱ－高島A遺跡・松木道路・干田遺跡発掘調査－」射水市教育委員会

第1表 出土遺物観察表（高島A遺跡）

図版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備 考	残存量
第6図	1	包含層 3地区	弥生土器	甕	17.1			擬凹線文	口1/8 破片
	2	表土 3地区	八尾	甕					破片
	3	包含層 3地区	弥生土器	高坏					破片
	4	S D03 3地区	弥生土器	器台					破片
	5	S D03 3地区	弥生土器	甕(蓋)					底1/6
	6	表土 3地区	珠網	甕					破片
	7	S D03 3地区	珠網	甕(蓋)					破片
	8	S D03 3地区	珠網	甕(蓋)					破片
	9	S D04 3地区	珠網	甕(蓋)					破片
	10	S D04 3地区	珠網	甕(蓋)				指頭圧痕	破片
	11	表土 3地区	珠網	甕(蓋)					破片
	12	S D09 4地区	土師器	甕				ミニチュア	底完存
	13	S D09 4地区	土師器	甕	14.4			内面赤彩	口1/8
	14	S D09 4地区	土師器	甕	18.8				口1/8
	15	S D09 4地区	土師器	甕	20.3			外腹端付着	口1/3

口：口縁部 底：底部 体：体部 壊：坏部 脊：脚部

第2表 出土遺物観察表（高島A遺跡）

図版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第6図	16	S D09 4地区	土師器	高环	16.7				□9/16
	17	S D09 4地区	土師器	高环	17.1				□1/2
	18	S D09 4地区	土師器	高环					脚完存
	19	表上 4地区	須恵器	杯B					底1/4
	20	包含層 4地区	須恵器						破片
	21	S D03 4地区	須恵器						破片
	22	S D02 4地区	須恵器						破片
	23	S D02 4地区	珠淵	壺(蓋)					破片
	24	S D02 4地区	珠淵	壺		39.6			□1/16
	25	S D02 4地区	珠淵	壺					破片
	26	S D02 4地区	珠淵	片口鉢				節目16条	底1/16
	27	S D02 4地区	金器製品	埋管				壺首部	完形
	28	S D03 4地区	唐津	大鉢				12.8	底1/2
	29	S D03 4地区	木製品	木札	長13.3	短3.0	厚0.6	墨痕	破片
第9図	30	S D01 5地区	土師器	壺				接四線文 内外面赤彩	破片
	31	S D01 5地区	土師器	壺(蓋)					底完存
	32	S D01 5地区	土師器	高环					破片
	33	S D01 5地区	土師器	高环					破片
	34	S K05 5地区	土師器	壺					□1/16
	35	S D01 5地区	珠淵	壺					破片
	36	S D01 5地区	珠淵	壺					破片
	37	S D01 5地区	珠淵	壺					破片
	38	S D01 5地区	珠淵	壺(蓋)				指頭圧痕	破片
	39	S D01 5地区	珠淵	壺(蓋)				指頭圧痕	破片
	40	S D01 5地区	珠淵	壺(蓋)				指頭圧痕	破片
	41	S D01 5地区	珠淵	壺(蓋)				指頭圧痕	破片
	42	S D01 5地区	珠淵	壺(蓋)				指頭圧痕	破片
	43	S D01 5地区	珠淵	壺				指頭圧痕	破片
	44	S D02 5地区	珠淵	壺(蓋)					破片
	45	表上 5地区	珠淵	壺(蓋)					破片
	46	S D02 5地区	珠淵	壺(蓋)				指頭圧痕	破片
	47	S K05 5地区	珠淵	壺				指頭圧痕	破片
	48	S K05 5地区	珠淵	壺				指頭圧痕	破片
第10図	49	S D01 5地区	珠淵	片口鉢	29.0				□1/16
	50	S D01 5地区	珠淵	片口鉢					底1/8
	51	S D01 5地区	八咫	すり鉢				12.0 銘目11条	底5/8
	52	S D02 5地区	青磁	碗	14.4			篠邊弁文 薩摩窯	□1/12
	53	S D01 5地区	瀬戸・美濃	瓶				自然輪付着	底1/4
	54	S D01 5地区	土製品	土鉢	長6.1	短4.0		管状 90g	完形
	55	S D01 5地区	鐵製品	鉄漆				輪型状 355g	
	56	S D01 5地区	木製品	木札	長18.9	短4.5	厚0.5	穿孔1箇所 先端剝状	
	57	S D01 6地区	弥生土器	壺	13.7			口縁端部剝み 外面縦付着	□1/5 体2/5
	58	S D01 6地区	弥生土器	壺	13.8	33.8	7.3		ほぼ完形
	59	S D03 6地区	弥生土器	壺				造弧文 磨削し縄文 築林式	破片
	60	S D06 6地区	弥生土器	壺	14.6	16.0	4.7	口縁端部剝み 外面煤付着	□1/4 底完存
	61	S D06 6地区	弥生土器	壺	18.2			口縁端部剝み 羽状文	□1/8
	62	S D06 6地区	弥生土器	壺	10.1	21.0	4.7		ほぼ完形
	63	S D07 6地区	弥生土器	壺	12.3			直線文	□1/3
	64	S D07 6地区	弥生土器	壺					底1/3 体1/3
	65	S D07 6地区	弥生土器	壺				ミニチュア 黄通孔	ほぼ完形
	66	S D07 6地区	弥生土器	壺(蓋)					底完存
	67	S K02 6地区	弥生土器	壺(蓋)					底3/4
	68	S K09 6地区	弥生土器	高环	16.6				□1/4

口：口縁部 底：底部 体：体部 壁：環部 脚：脚部

## 第3章 土合地区分布調査

### 第1節 調査に至る経緯と調査の経過

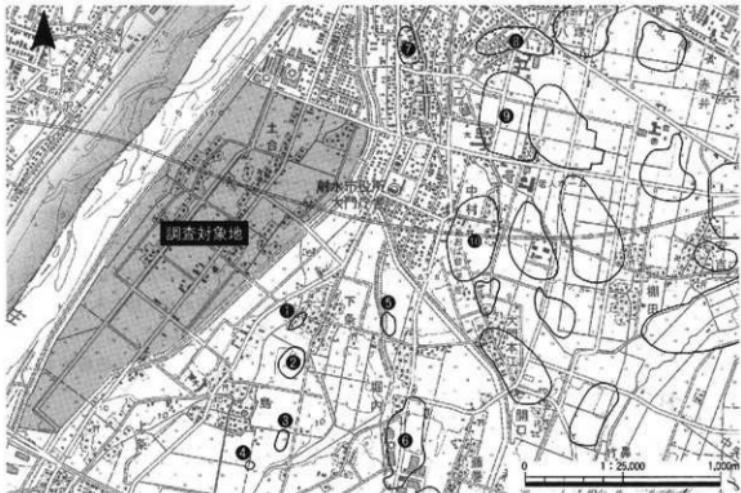
平成20年9月、富山県高岡農林振興センターから、射水市土合地区における県営は場整備事業の実施にかかる事前協議を受けた。事業は平成22年度からの6か年計画で、地区内の農道・用排水路等の撤去・新設および水田の切土・盛土を含み、1haを標準とする区画へ再整備するものである。

土合地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されていなかったが、これは、地区の大部分が埋蔵文化財未調査区域となっていたためである。事業計画と埋蔵文化財の保護との調整を図るために、事業計画地の全域を対象とした分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無を確認する必要があった。

土合地区では、庄川に隣接する立地上、洪水による地形の改変が頻繁に発生しており、昭和9年の庄川洪水後には、土壤の移動や客土を伴う大規模な耕地復旧事業が実施された。そのため、現地踏査に加えて小規模なトレンチ発掘を併用した分布調査を実施し、表面採取による遺物の分布状況と、地山や堆積土壤等の地形状況を併せて確認することで、必要な調査精度を確保することとした。

関係者との協議の結果、平成21年度の耕作終了後に、射水市教育委員会が主体となって分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地範囲を確定した上で、翌年度以降に試掘調査を実施することとなった。

平成21年9月18日、地元土合地区のは場整備事業推進委員会において、分布調査の実施と調査方法等について説明を行い、10月15日から10月23日にかけて現地調査を実施した。



第12図 調査対象地及び周辺の遺跡 (1:25,000)

- 下条A遺跡
- 島前田遺跡
- 島鉢田遺跡
- 島鉢田南遺跡
- 下条B遺跡
- 布目沢北遺跡
- 二口西遺跡
- 八塙C遺跡
- 二口油免遺跡
- 本江畑田1遺跡

## 第2節 調査の方法

調査は、は場整備事業計画区域全城の85ha（区画整理面積78.4ha）を対象とし、地表面の踏査による遺物の採取に加え、小型のバックホウを用いた幅0.6m、長さ2.5m程度の小規模なトレンチ（以下Tと略す）発掘によって地下の旧地形をあわせて確認した。

ただし、は場整備事業計画区域の北側に位置する、北陸新幹線整備計画地沿線の約16.7haは、昭和59年度に富山県埋蔵文化財センターによる分布調査が実施済みであったため、現地調査の対象からは除外し、既往の調査成果を参考することとした。

トレンチは、概ね現況の水田3～5枚に1か所の割合で任意に設定した。掘削深度は、遺構面と考えられる層、または土台地区一帯に広く分布する砂礫層に達するまでとし、遺構・遺物の有無及び土壤の堆積状況を確認のうえ、土層断面の実測及び写真撮影により記録を作成した。掘削したトレンチは計150か所で、総発掘面積は約233m<sup>2</sup>である。

## 第3節 調査の概要

### 第1項 基本層序

基本層序は、上層から順に、I層：黒褐色粘質土、II a層：黄褐色砂質土、II b層：橙色砂礫、III層：黄褐色・オリーブ褐色砂、IV層：灰黄色・にぶい黄色シルト、V層：暗灰黄色砂礫となる。

I層は、現在の水田耕土及び床上である。II層は、I・III層間に堆積する砂質土層及び砂礫層であるが、堆積の上下関係が確認できないため、a・b層に細分した。II b層は概ね橙色を呈し、径10cmから最大で40cm近い円礫が多く混入する。

III層は、砂の堆積層を一括したものである。色調や砂粒の大きさなど、場所によって異なった様相を見せ、V層が深く落ち込む場所を中心に堆積している。IV層は地山と考えられる層である。V層は砂礫層であり、径10cm程度のII b層と比較して小粒の凹凸が多く含まれている。トレンチ発掘では、V層の砂礫層までを調査対象とした。

### 第2項 造構・遺物及び地形の状況（第13図、図版9）

調査の結果、調査対象地において、埋蔵文化財包蔵地の所在は確認できなかった。

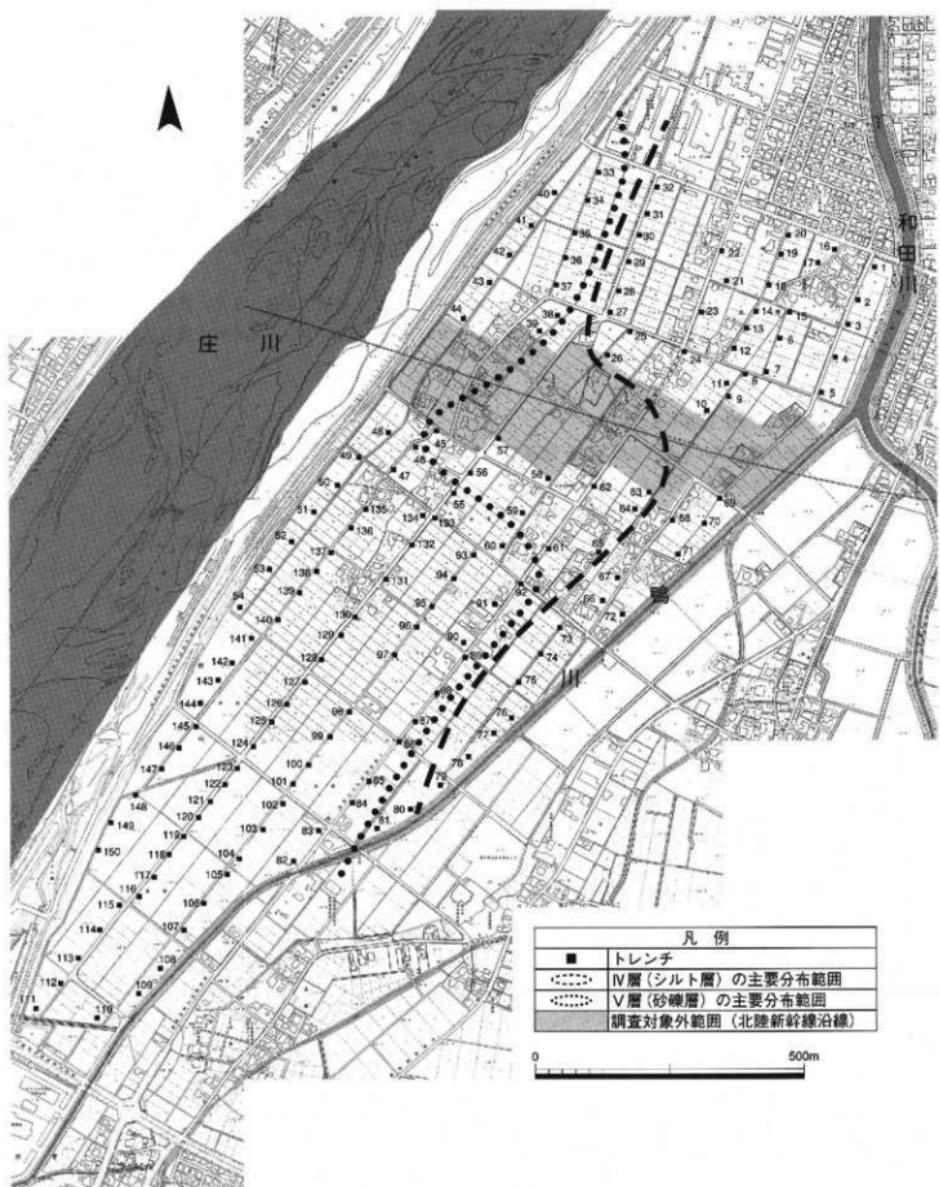
調査対象地北東部を中心とした、1～29・31・32・69～75Tでは、地山となるIV層の堆積が確認できる。IV層は概ね地表下0.5m付近に位置し、比較的安定した堆積状況といえるが、一帯では遺物の分布は認められず、トレンチ内においても遺構・遺物は確認できなかった。

IV層が遺存する範囲では、上部にII a層の堆積を作り出しが多い。II a層の大部分は、I層直下に堆積しているが、15Tでは同層中から、18Tでは下層に現れる水路等の埋め立て跡とみられる粘質土中から、それぞれ近代の瓦片が出土しており、近代以降の造成盛土と考えられる。

現在、調査対象地の東側を流れる和田川や鷹川は、河川改修によって北へ向かう直線的な流路となっているが、以前はもう少し西側に蛇行した流れであったといわれる。

高樹文庫蔵の寛政11年（1799）の「鶴村二郎右衛門組下射水郡土合新村内検地領絵図」には、地区の東方に蛇行する和田川や「古川」と記された河川が記され、他にも地区を貫流する南北方向の河川（水路か）が複数記されている。これらの蛇行した河川に鷹川の旧流路が含まれると考えられる。II a層は、和田川及び鷹川流路付近を中心に堆積していることから、後世、河川跡地や周辺の低い土地に対し盛土造成を行ったことを示すものと考えられる。

調査対象地の北西～南部に位置する、33～37・40～56・76～83・87～132・134～150Tでは、広範囲に渡ってII b層・V層の砂礫層が堆積している。先述のとおり、上下2層に分かれるこの砂礫層は、



第13図 分布調査の結果

共に河原石とみられる円礫を多く含むが、含まれる礫の大きさからその差が明瞭である。また、II b層がI層直下で現れるのに対し、V層はI層直下から地表下1.3mまで出現深度に幅がある。

V層の堆積時期は明確ではないが、庄川に隣接し、古来より洪水被害が頻発している土合地区の立地からも、長年に渡り庄川の流水によって運ばれた砂礫層と考えられる。

一方、II b層については、136TのII b層下層において、近年の埋め立てとみられる木片を含んだ粘質上の堆積を確認している。埋め立て時期を特定できる遺物は出土していないが、この付近には、かつて沼状の湿地が点在していたことが知られている。また、昭和初期頃に砾を投入し埋め立てた場所があるとされることから、II b層は、土質は異なるものの、II a層と同様に近代以降に搬入された造成土と判断した。

調査対象地の中央部は、IV層のシルト層とV層の砂礫層が混在する状況である。また、III層の砂層が厚く堆積する場所が多く見られる。III層は、48~54Tや57~65Tなど、IV・V層が深く落ち込む範囲を中心に堆積している。

### 第3項 歴史的環境と調査のまとめ

今回の調査対象地である土合地区では、埋蔵文化財包蔵地の所在は確認できなかった。以下、土合地区の歴史的環境と調査で得られた所見とを総括し、調査のまとめとしたい。

土合地区は、明治22年（1889）の町村分合によって誕生した旧浅井村に含まれる。旧浅井村は、土合地区及び、現在の広上・小泉・上条・下条・島・堀之内村から成り、このうち広上・小泉・上条・下条・島の5か村は「浅井郷五ヶ村」と称され、中世以前から存在した。

土合地区は、土合村・土合新村・古川新村・柳俣村の4つの集落によって構成され、これらの集落は、大正3年（1914）に統合され、浅井村大字十合となった。

土合村は、土合地区の最北部に位置する集落であり、庄川の洪水で荒廃した土地の開拓によって誕生したとされる。集落の成立時期は定かではないが、近世初期とされる南葵文庫本「越中国絵図」（東京大学総合図書館蔵）に、既に土合の名が見え、承応2年（1653）には、加賀藩の「改作法」による改作が実施されている（折橋家文書）。

土合新村は、土合村の南部に位置する。寛文2年（1662）に土合村の農民が、庄川洪水で荒廃した旧土合村領を再開拓したのが始まりとされる。元禄3年（1690）には、土合をはじめ、周辺の上条・下条・二口からの入会地開拓があり「四ヶ村開」と称した。以後、継続的に新開を続け、寛保2年（1742）に一村立てとなった。

古川新村は、土合地区の東部に位置する。享保元年（1716）に、庄川洪水の入川跡地となっていた、土合・東広上・上条・下条・島・二口の近郊6か村の入会地を開拓したのが始まりとされる。はじめ「古川開」と呼ばれ、寛政12年（1800）に一村立てとなった。

高樹文庫蔵の「鶴村ニ郎右衛門組下射水郡上合新村内検地領絵図」では、「古川」と記された河川流域に「古川開領」の名が見えることから、この「古川」周辺が享保元年の庄川洪水入川跡地と考えられる。

柳俣村は、土合地区4か村のうち、最も西寄りの庄川沿いに位置する。享保12年（1727）に、枇杷首・深沢・百米木・出来山・下条・中村の周辺6か村の入会地を開拓したのが始まりである。川柳が繁茂していたことから「柳俣開」と呼ばれ、慶応4年（1867）には、「柳俣村」の地名が見える。

庄川に近いという立地上、土合地区でも最も洪水の頻発した場所と考えられ、「鶴村ニ郎右衛門組下射水郡土合新村内検地領絵図」には、庄川本流に匹敵する川幅の入川被害状況が記されている。

土合地区4か村のうち、最も占い土合村は、通称「高土合」と呼ばれ、近郊の土合新・古川新・柳

例よりも標高の高い場所に位置する。トレンチ調査でも、この一帯において地山のシルト層が一定の堆積状況を示しており、地区内の他の集落と比較して安定した立地といえる。

これに対して、後発の集落である上合新・古川新・柳俣村近では、砂や砂礫の堆積が目立ち、現在の水田下には、起伏に富んだ地形が残されている。このことから、近世初期に土合村の周辺から開拓が開始され、集落の拡大や洪水による耕地の流失等を契機に、南方或いは西方の標高の低い土地へと、新開地を求めて開拓を続けていった状況が伺える。

集落誕生の経緯に見るとおり、土合地区の歴史は、度々の洪水による荒廃と再開発の歴史であった。現在の庄川は、堤防によって固定された流路となっているが、かつては洪水の度に分流・乱流を繰り返しており、土合地区を含む流域の集落は、近世以降20数回に及ぶ大洪水に見舞われている。

近世では、宝暦13年（1763）、安永6年（1777）、嘉永4年（1851）の洪水被害が文献記録等によって知られており、近年では、昭和9年（1934）の庄川洪水が有名である。

昭和9年の洪水では、土合地区の上流にある広上地内の庄川東側堤防が決壊し、土合地区を含む旧浅井村はもちろん、下流にあたる当時の大門町・大島村・塙原村・作道村・片口村・下村及び海岸部の新湊町・堀岡村にまで浸水被害が及んでいる。

土合地区では、全戸が浸水し、耕作地が全滅に近い被害を受けた。一面に水田が広がる現在の景観は、この洪水の後、住民が一丸となって復旧を成し遂げたものであり、地区の南部には、昭和15年（1940）に建立された水害復興記念碑が現在も残されている。

トレンチ調査では、地区北東部のシルト層、南西部の砂礫層、中央部の砂層という場所によって大きく異なる堆積土と、起伏に富んだ地形状況を確認している。西方の庄川、東方の和山川・鶴川に挟まれ、常に河川の影響下に置かれているという立地から、シルト・砂礫・砂という堆積土の差異は、東西の河川が運ぶ土砂の性質に由来するものであろう。また、洪水の度に流路の変化が発生し、土砂・砂礫の流入による島状の高まりや湿地が所々に形成されていったと考えられる。

土合地区では、未曾有の災害であった昭和9年の洪水復旧工事の際に、大規模な客土や礫の移動が行なわれているが、洪水以前の昭和初期においても、地区の各所で湿地と礫原が混在し、集落の周辺部に小規模な水田が散在する状況であったといわれる。

今回の分布調査では、遺物の散布や遺構の存在は認められず、治水技術の未発達な近世以前においては、安定した集落の形成が望めなかった場所であったと考えられる。

#### 参考文献

- 大門町 1981年 『大門町史』
- 大門町 1994年 『大門町 歴史の追跡調査報告書』
- 大門町 2005年 『大門町史続巻』

## 第4章 その他の遺跡調査

平成21年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査3件・試掘調査19件・本発掘調査4件・工事立会11件であった。傾向としては、試掘調査件数が昨年度比較で1割増加、調査原因が個人専用住宅建築に伴うものがその約3割を占める結果となった。

### 分布調査

No.	所在地	原因	調査期間	対象面積	種別	深度	探査遺物	開発への対応			
1	土合202 内2階	個人専用住宅建築	H21.4.17	160.0m <sup>2</sup>	斜面発生	標高7mの水田		支障なし			
2	黒瀬町405-1 内2階	集合住宅建築	H21.5.12	22.9m <sup>2</sup>	大規模な太閤山古墳群 近隣墓地内	標高14~15mの 植生		支障なし			
3	土合風呂	耕作は通常事業者	H21.10.15~23	784.00m <sup>2</sup>	未記載	標高6~11mの 水田		支障なし			
計	3件			対象面積 785.00m <sup>2</sup>							

### 試掘調査

No.	調査名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	発掘内容	深度	出土遺物	開発への対応	
1	今井二番 21.10.23	今井432番地	耕作地25 墓地起立化	H21.5.0	257m <sup>2</sup>	11m <sup>2</sup>	斜面発生			支障なし	
2	本田平木 21.10.06	本田平木180番地	耕作地25 墓地起立化	H21.5.1	100m <sup>2</sup>	11m <sup>2</sup>	斜面発生			支障なし	
3	一谷井 21.10.06	三ヶ175番	神社鳥居 墓地起立化	H21.5.10	133m <sup>2</sup>	10m <sup>2</sup>	斜面発生 土坑			支障なし	
4	中井 21.10.05	中井477-2	個人専用 住宅建築	H21.5.3-8	498m <sup>2</sup>	15m <sup>2</sup>	斜面 土坑			支障なし	
5	島原町5-5 21.10.04	西町東25番9	個人専用 住宅建築	H21.9.8	356m <sup>2</sup>	10m <sup>2</sup>	斜面発生			支障なし	
6	安江庄 21.10.05	ももの山304-1番	個人専用 住宅建築	H21.9.0	380m <sup>2</sup>	10m <sup>2</sup>	斜面 集落 溝		中耕跡 中耕土跡	支障なし	
7	末上-新規里 21.10.05	新規里855-1番3地	耕作地	H21.9.14	301m <sup>2</sup>	17m <sup>2</sup>	斜面地 斜面地		溝 土坑	支障なし	
8	日5-9-4 21.10.05	大丸421番1号	駄駄地	H21.9.15	711m <sup>2</sup>	415m <sup>2</sup>	斜面地 集落			支障なし	
9	高鶴丸 21.10.07	佐庭300番地	活塙築造	H21.9.16	301m <sup>2</sup>	27m <sup>2</sup>	斜面地 集落			支障なし	
10	安寺 21.10.04	安寺字下北 125番554番1号	耕作地利用 既存地盤	H21.10.5	211m <sup>2</sup>	15m <sup>2</sup>	斜面地			支障なし	
11	片桐西 21.10.09	黒瀬23-1番地外2番	物置修理 既存	H21.10.6~7-10	3,302m <sup>2</sup>	310m <sup>2</sup>	斜面地 集落 溝		自然洗浄 疏水土基 石	土造によって 多段式石垣を発見	
12	今井里 21.10.02	今井170番地40番	留意壁建設	H21.10.19~20	11,266m <sup>2</sup>	180m <sup>2</sup>	斜面地			支障なし	
13	黒瀬47番 21.10.04	黒瀬字下北 107番552番地	個人専用 住宅建築	H21.10.27	425m <sup>2</sup>	242m <sup>2</sup>	斜面地 集落			支障なし	
14	坂越西 21.10.06	坂越字下北 133番地40番	駄駄地	H21.10.20	97m <sup>2</sup>	36m <sup>2</sup>	斜面地 集落 溝		強生土基	支障なし	
15	黒瀬河原 21.10.05	黒瀬字下北40番	留意壁造成	H21.10.20	171m <sup>2</sup>	6m <sup>2</sup>	斜面 斜面			支障なし	
16	日5-9-4 21.10.04	大丸30番150番	ダクラン 造成	H21.11.19~21-22	8,661m <sup>2</sup>	101m <sup>2</sup>	斜面地 集落		古墳土形基 古代堆积地 中耕地	支障なし	
17	松木C 21.10.04	松木10番33	修理 塗装	H21.11.26~27	97m <sup>2</sup>	196m <sup>2</sup>	斜面地		古墳土堆 古代堆积地	工法によって 多段式石垣を発見	
18	本坊800番 21.10.05	本坊字下北 805-1番	駄駄地造成	H21.12.9	83m <sup>2</sup>	432m <sup>2</sup>	斜面地		中耕跡 中耕土跡	支障なし	
19	西高丸 21.10.07	諫迎201-1番4号	学校建物 セントラル 宿泊	H22.1.19	5,675.94m <sup>2</sup>	63m <sup>2</sup>	斜面地 集落			支障なし	
計	17箇所-9件			対象面積 28,805.51m <sup>2</sup> / 発掘面積 1,535m <sup>2</sup>							

### 本発掘調査

No.	調査名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	発掘	標山遺跡	出土遺物			
1	高瀬A 21.10.07	高瀬字下北11番68	個人専用 住宅建築	H21.5.14~6-4	98m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup>	斜面 斜面地	斜面地 斜面地	強生土基 小便池跡 小便器			
2	高瀬B 21.10.07	高瀬字下北11番119	個人専用 住宅建築	H21.5.14~6-5	87m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup>	斜面 斜面地	古墳遺跡 古墳地	古墳土堆 古代堆积地 中耕地			
3	高瀬A 21.10.07	高瀬字下北11番175	個人専用 住宅建築	H21.5.15~7-25	117m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup>	斜面 斜面地	古墳遺跡 古墳地	古墳土堆 古代堆积地 中耕地			
4	高瀬A 21.10.07	高瀬字下北11番103	個人専用 住宅建築	H21.9.4~9-21	62m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup>	斜面 斜面地	強生土基	強生土基			
5	1箇所9件				全査定面積 234m <sup>2</sup>							

第3表 平成21年度 埋蔵文化財発掘調査一覧



第14図 試験調査位置図

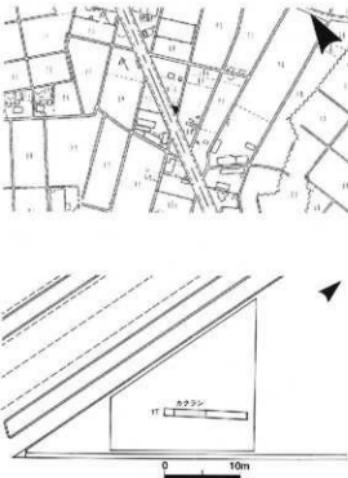
## 第1節 平成21年度試掘調査概要

### 1. 今井二島遺跡

所在 地 射水市今井432番地  
調査期間 平成21年5月20日  
調査面積 対象面積: 257m<sup>2</sup> 発掘面積: 11m<sup>2</sup>  
調査原因 携帯電話基地局建設  
調査担当者 尾野寺克実・金三津英則  
検出遺構 なし  
出土遺物 なし

#### 調査概要

対象地は遺跡範囲の西端部に位置し、標高約2mに位置する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が水田床土、3層が灰オーリープ色(5Y6/2)シルトの地山である。旧鉄塔跡とみられる搅乱を確認したのみである。東側隣接地での試掘調査においても遺跡の広がりが確認されていないため、遺跡の中心はより北東側であり、当該地は遺跡範囲外と考えられる。

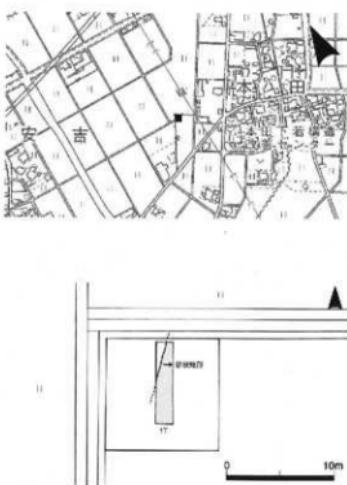


### 2. 本田天水遺跡

所在 地 射水市本田天水180番1  
調査期間 平成21年6月1日  
調査面積 対象面積: 100m<sup>2</sup> 発掘面積: 11m<sup>2</sup>  
調査原因 携帯電話基地局建設  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出遺構 なし  
出土遺物 なし

#### 調査概要

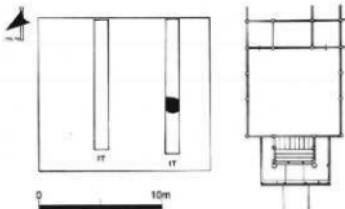
対象地の現況は資材置場で、標高約7.5mに位置する。土層は7層に細分され、地山は灰褐色(2.5Y7/2)シルトである。造成盛土が厚く、地山まで2.1mを測る。1T中央部から北端部において、腐植物を含むしまりのない粘質土が、地山直上に堆積しており、旧河川跡等の地形の落ち込みと考えられる。その他、遺構・遺物の遺存は認められなかった。



### 3. 十社宮遺跡

所在 地 射水市三ヶ1753  
調査 期間 平成21年 6月10日  
調査 面積 対象面積: 123m<sup>2</sup> 発掘面積: 19m<sup>2</sup>  
調査 原因 神輿保管倉庫建設  
調査 担当者 田中 明・金三津英則  
検出 遺構 時期不明: 土坑1基  
出土 遺物 なし

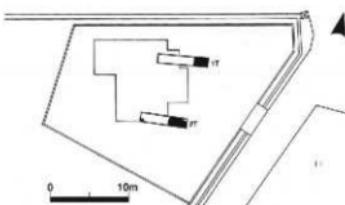
調査概要　対象地の現況は神社境内地で、標高約3.9mに位置する。土層は5層に細分され、地山はにぶい黄褐色(10YR5/4)シルトである。1Tで検出した土坑は、南北への広がりは未確認だが、東西幅は約1m、深さは約25cmを測る。遺物が出土しなかったため時期不明とした。十社宮の創建は中世に遡ると考えられるが、当該期の遺構、遺物は確認できなかった。



### 4. 赤井遺跡

所在 地 射水市赤井477-2  
調査 期間 平成21年 6月18日  
調査 面積 対象面積: 498m<sup>2</sup> 発掘面積: 15m<sup>2</sup>  
調査 原因 個人専用住宅建築  
調査 担当者 尾野寺克実・金三津英則  
検出 遺構 近世以降: 溝1条・土坑2基  
出土 遺物 なし

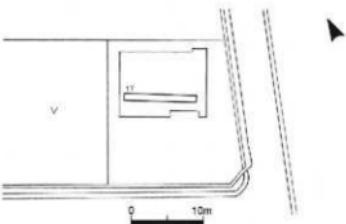
調査概要　対象地は標高約5mに位置する。土層は6層に細分され、地山は灰色(10Y5/1)シルトである。1T東端部で深さ約25cmの溝1条を検出した。2Tでは土坑2基を検出、直径・深さ共に約30cmの小穴と、幅1.2m×2.0m以上・深さ約40cmの長方形土坑である。遺構覆土が水田床土と同質であることから、旧水田整備時に埋められたものと考えられる。



## 5. 烏帽子形遺跡

所在 地 射水市西新湊24番9  
調査 期間 平成21年9月8日  
調査 面積 対象面積: 358m<sup>2</sup> 発掘面積: 10m<sup>2</sup>  
調査 原因 個人専用住宅建築  
調査 担当者 金三津英則  
検出 遺構 なし  
出土 遺物 なし

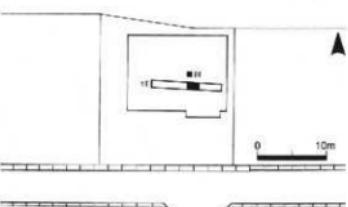
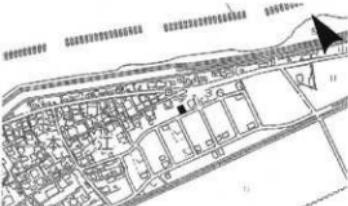
**調査概要** 対象地の現況は宅地で、標高約1.6mである。土層は11層に細分され、地山は灰黄色（2.5Y6/2）シルトである。昭和55年に北側約90mの地点で実施した調査では、地表下1.1m～1.4mの黒色土層から古墳時代の土師器が出土している。今回の調査で確認した第8層が、土器が出土した土層にあたると考えられるが、当該期の遺物は出土しなかった。



## 6. 本江東遺跡

所在 地 射水市かもめ台10 外1筆  
調査 期間 平成21年9月10日  
調査 面積 対象面積: 389m<sup>2</sup> 発掘面積: 10m<sup>2</sup>  
調査 原因 個人専用住宅建築  
調査 担当者 尾野寺克実・金三津英則  
検出 遺構 中世: 潟1条  
出土 遺物 中世珠洲・中世土師器

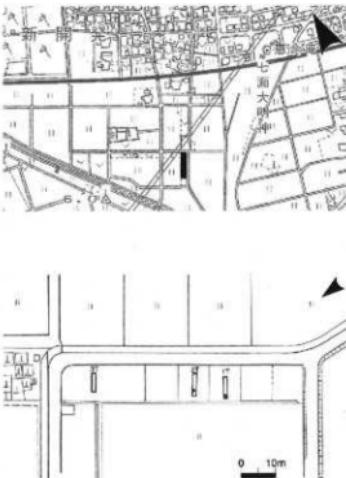
**調査概要** 対象地の現況は宅地で、標高約2.1mである。土層は4層に細分され、地山はオリーブ黄色（5Y6/3）シルトである。平成11年度に南側隣接の市道部分で本発掘調査を実施しており、奈良・平安時代の遺構が確認されている。今回は遺構密度が非常に薄かった場所に位置しているため、溟1条のみであり、当時の営みを感じさせるものは確認できなかった。



## 7. 水上・本開発遺跡

**所 在 地** 射水市新開発845-1 外3筆  
**調査期間** 平成21年9月14日  
**調査面積** 対象面積: 391m<sup>2</sup> 発掘面積: 17.8m<sup>2</sup>  
**調査原因** 墓地造成  
**調査担当者** 尾野寺克実・金三津英則  
**検出遺構** 近世以降: 溝1条・土坑1基  
**出土遺物** なし

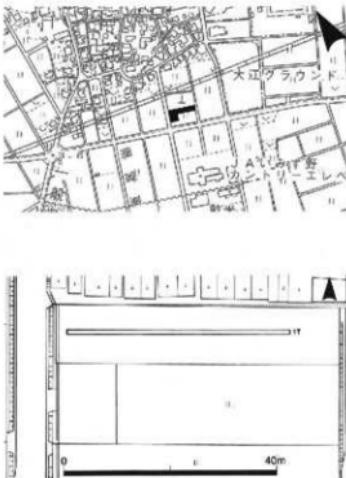
**調査概要** 対象地は標高約5.9mに位置する。土層は7層に細分され、地山はにぶい黄色(2.5Y6/3)シルトである。検出した遺構の覆土は、1Tの溝がにぶい黄褐色粘質土、2Tの土坑は腐食した汚泥が堆積する。この土坑は遺物の出土はないが、掘り込み・覆土状況から近世以降の廐棄穴と考えられる。この地域は調査実績が少なく、遺跡の内容が不明な地域である。



## 8. HS-04遺跡

**所 在 地** 射水市大江421-1 外1筆  
**調査期間** 平成21年9月15日  
**調査面積** 対象面積: 713m<sup>2</sup> 発掘面積: 41.5m<sup>2</sup>  
**調査原因** 墓地造成  
**調査担当者** 尾野寺克実・金三津英則  
**検出遺構** なし  
**出土遺物** なし

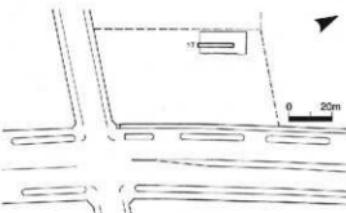
**調査概要** 対象地の現況は水田で、標高約2.3mに位置する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が水田底土、3層がオリーブ黄色(5Y6/3)シルトである。トレンチ西側は若干高い地形で、昭和30年代の耕地整理により削平を受けている可能性がある。この地域で遺構を確認している粘質土の地山ではないため、居住に適さない場所であったと考えられる。



## 9. 高島A遺跡

所在地 射水市作道303番1  
調査期間 平成21年9月16日  
調査面積 対象面積: 201m<sup>2</sup> 発掘面積: 27m<sup>2</sup>  
調査原因 店舗建設  
調査担当者 尾野寺克実・金三津英則  
検出遺構 なし  
出土遺物 なし

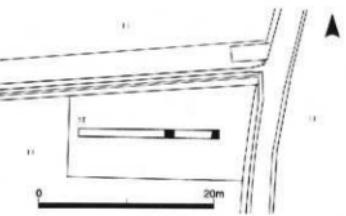
**調査概要**  
対象地は標高約2.5mに位置する。土層は上から1層が造成盛土、2層が旧水田耕作土、3層が灰色（5Y6/1）シルトの地山である。地山の標高は、トレント南北で約40cmの比高差があり、北側に向かって徐々に下がり低湿地状の地形となっている。北端部では、さらに約30cm北側へ落ち込んでおり、対象地北側に旧河川の流路が存在する可能性がある。



## 10. 安吉遺跡

所在地 射水市安吉字大正129番5 外1筆  
調査期間 平成21年10月5日  
調査面積 対象面積: 211m<sup>2</sup> 発掘面積: 15m<sup>2</sup>  
調査原因 携帯電話用鉄塔建設  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出遺構 近代以降: 溝1条  
時期不明: 溝1条  
出土遺物 なし

**調査概要**  
対象地の現況は水田で、標高約6.4mに位置する。土層は上から1層が水田耕土、2層が水田床土、3層が自然堆積土、4層が灰色（7.5Y6/1）シルトの地山である。トレント東端部の溝は、2層水田床土で埋まっているため、近代以降の遺構と考えられる。中央部の溝は、地山を掘り込み、3層黒色粘質土によって埋められているが、遺物の出土はない。

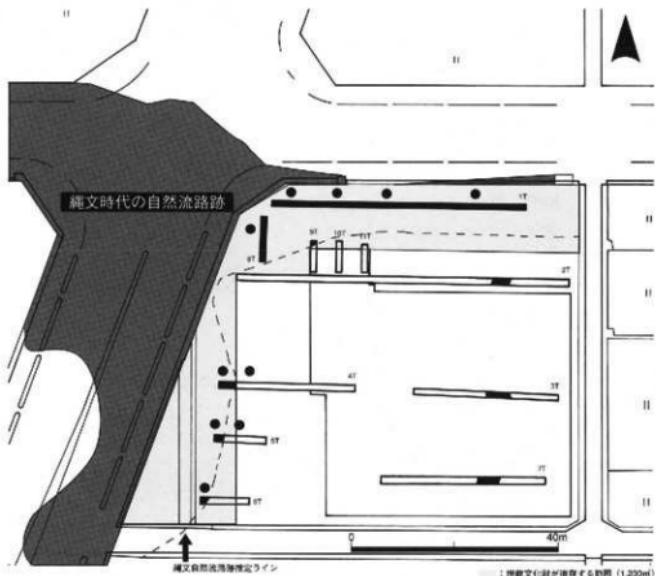


## 11. 針原西遺跡（第15図、図版12・14）

所在地 射水市黒河73-4番地 外2筆  
 調査期間 平成21年10月6日・7日・30日  
 調査面積 対象面積: 5,082m<sup>2</sup> 発掘面積: 310m<sup>2</sup>  
 調査原因 物流倉庫建設  
 調査担当者 尾野寺克実・田中 明・金三津英則  
 掘出遺構 縄文時代: 自然流路1条  
 近代以降: 溝1条  
 出土遺物 縄文土器(後期前葉)・石錐



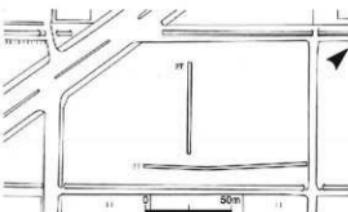
**調査概要** 対象地の現況は水田で、標高約3.4mである。土層は7層に細分され、上下2層の旧地表面が遺存している。上層地山は灰黄褐色(10YR4/2)粘土で弥生・古墳時代から奈良・平安時代、下層地山は灰オリーブ色(5Y6/2)粘土で縄文時代中期の生活面と考えられる。遺構は縄文時代の自然流路と近代以降の溝を検出。縄文時代の自然流路は、平成13年度に対象地西側県道部分での本発掘調査で確認された遺構に繋がる流れと考えられ、南側からの川筋が分岐し東西方向へ流路を変えることを確認した。遺物は縄文土器・石錐が出上。第15図8は口径27.5cmを測る縄文土器の深鉢であり、縄文時代後期前葉の前田式である。縄文時代以降の遺構が検出されなかったため、時代によって遺跡の中心地が移動しているものと推定できる。各時代における遺跡の縁辺部に位置し、遺構が形成されなかつた場所と考えられる。埋蔵文化財が遺存する範囲(1,200m<sup>2</sup>)内において、現地表下80cm以上の掘削又は土壤改良工事等を施工する場合は、記録保存が必要である。



## 12. 今井南遺跡

所在 地 射水市今井170番1 外10筆  
調査 期間 平成21年10月19日・20日  
調査 面積 対象面積: 11,266m<sup>2</sup> 発掘面積: 180m<sup>2</sup>  
調査 原因 警察署建設  
調査 担当者 原田義範・尾野寺克実  
検出 遺構 なし  
出土 遺物 なし

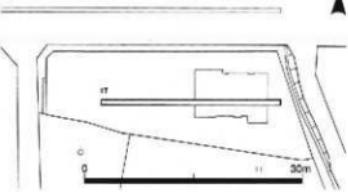
**調査概要**  
対象地の現況は宅地で、標高約3mに位置する。土層は5層に細分され、地山は黄褐色(2.5Y5/4)シルトである。平成7年度にふるさと農道の新設及び拡幅に伴う試掘調査を実施し、対象地南側の歩道も掘削している。その際も、遺構は検出されていない。対象地内において埋蔵文化財包蔵地の広がりは認められず、遺跡範囲の変更を検討する必要がある。



## 13. 黒河尺目遺跡

所在 地 射水市黒河字尺目1935番2 外2筆  
調査 期間 平成21年10月27日  
調査 面積 対象面積: 428m<sup>2</sup> 発掘面積: 24.2m<sup>2</sup>  
調査 原因 個人専用住宅建築  
調査 担当者 田中 明  
検出 遺構 なし  
出土 遺物 なし

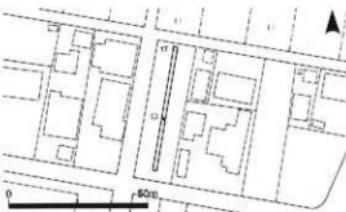
**調査概要**  
対象地の現況は水田で、標高約8.6mに位置する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が灰白色(2.5Y8/2)粘質シルトの地山、3層がにぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂に礫が混じる層である。平成13年度に東方約50mの県道小杉婦中線下で実施した調査では、奈良・平安時代の遺跡が確認されているが、対象地においては当該期の遺構・遺物は確認できなかった。



## 14. 加茂社遺跡（図版10）

**所 在 地** 射水市戸破字加茂1735番12 外1筆  
**調査期間** 平成21年10月30日  
**調査面積** 対象面積：976m<sup>2</sup> 発掘面積：368m<sup>2</sup>  
**調査原因** 宅地造成  
**調査担当者** 田中 明  
**検出遺構** 弥生時代：溝1条  
**出土遺物** 弥生土器

**調査概要** 対象地は標高約5mに位置する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が淡黄色（2.5Y8/3）粘質シルトの地山である。検出した溝は褐色（10YR4/1）粘質シルトが堆積し、弥生土器が出土した。平成7年度に西方約60m地点で行われた調査では、遺構が確認されてないことから、今回検出した遺構が広がりを見せる可能性は低いと考えられる。



## 15. 黒河西山遺跡

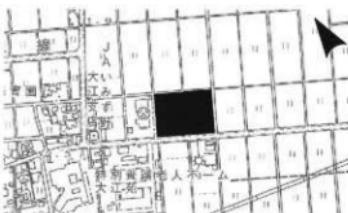
**所 在 地** 射水市黒河字竹山3342番  
**調査期間** 平成21年10月30日  
**調査面積** 対象面積：171m<sup>2</sup> 発掘面積：4m<sup>2</sup>  
**調査原因** 駐車場造成  
**調査担当者** 尾野寺克実  
**検出遺構** なし  
**出土遺物** なし

**調査概要** 対象地の現況は雑種地である。土層は4層に細分され、地山は灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルトであり、地表下120cm前後で検出した。南側の台地から崖地状に落ち込んだ低段であるが、東から西に向けて地山が低くなっていく様相が確認できた。平成16年度に東側隣接地で実施した調査でも遺構がないため、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が必要となる。

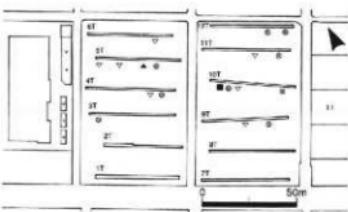


## 16. HS-04遺跡（第15図）

**所在地** 射水市大江93番1 外10筆  
**調査期間** 平成21年11月19日～21日  
**調査面積** 対象面積: 9.951m<sup>2</sup> 発掘面積: 591m<sup>2</sup>  
**調査原因** グラウンド造成  
**調査担当者** 田中 明・金三津英則  
**検出遺構** なし  
**出土遺物** 古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲近世陶磁器



**調査概要** 対象地の現況は水田で、標高約1.3mに位置する。土層は5層に細分され、上下2層の旧地表面が遺存している。上層地山は地表下20cm～30cmとほぼ表土直下に位置するため、耕作整理等による削平で所々で消滅している。遺物は、全て1層水田耕作土からの出土であり、流れ込みによるものと考えられる。

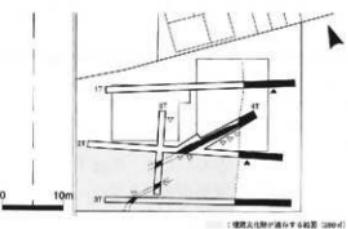


## 17. 朴木C遺跡（第15・16図、図版13・14）

**所在地** 射水市松木19番3  
**調査期間** 平成21年11月26日・27日  
**調査面積** 対象面積: 978m<sup>2</sup> 発掘面積: 106m<sup>2</sup>  
**調査原因** 修理工場建設  
**調査担当者** 田中 明・金三津英則  
**検出遺構** 古墳時代: 溝2条  
 近代以降: 溝1条  
**出土遺物** 古墳土師器・古代須恵器



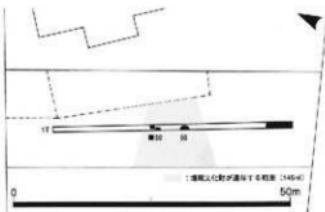
**調査概要** 対象地の現況は水田で、標高約2.9mに位置する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が水田底土、3層が明黄褐色(2.5Y7/6)シルトの地山である。2～5Tで検出した溝から、古墳時代前期の土師器（壺・甕）が出土している。このため、対象地中央から南西部への範囲内で、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、記録保存(260m<sup>2</sup>)が必要である。



## 18. 本田畠田遺跡（第16図、図版11）

**所 在 地** 射水市本田字宮田46-1  
**調査期間** 平成21年12月9日  
**調査面積** 対象面積：838m<sup>2</sup> 発掘面積：43.2m<sup>2</sup>  
**調査原因** 駐車場造成  
**調査担当者** 田中 明・金三津英則  
**検出遺構** 中世：土坑3基  
**出土遺物** 中世株洲・中世土師器

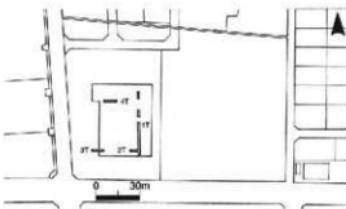
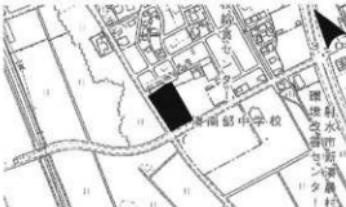
**調査概要** 対象地の現況は水田で、標高約6.8mに位置する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が水田底土、3層がにぶい黄色（2.5Y6/4）粘質シルトの地山である。検出した土坑からは株洲壺・中世土師器皿が出土している。対象地中央部の埋蔵文化財遺存範囲内（145m<sup>2</sup>）において、現地表下20cm以上の掘削を伴う工事等を施工する場合は、記録保存が必要である。



## 19. 高島A遺跡

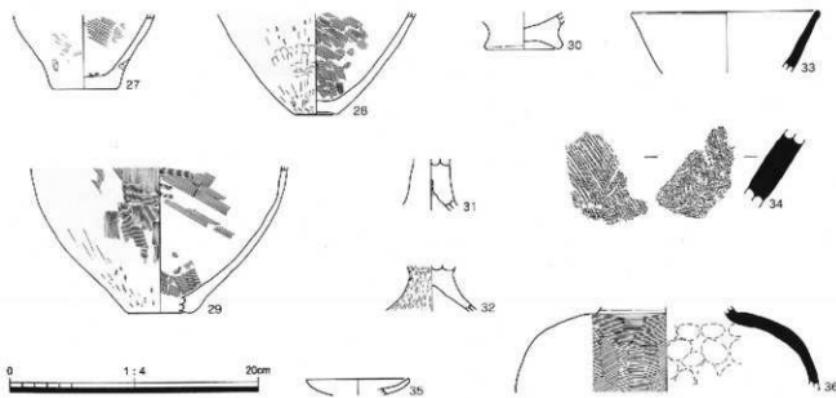
**所 在 地** 射水市鏡宮203-1 外4筆  
**調査期間** 平成22年1月19日  
**調査面積** 対象面積：5,675.94m<sup>2</sup> 発掘面積：65.5m<sup>2</sup>  
**調査原因** 学校給食センター建設  
**調査担当者** 田中 明・金三津英則  
**検出遺構** なし  
**出土遺物** なし

**調査概要** 対象地の現況はグラウンドで、標高約2.5mに位置する。土壌は上から1層が造成盛土、2層が旧水田耕土、3層が黒褐色（2.5Y3/1）の自然堆積土、4層が灰オリーブ色（5Y5/2）シルトの地山である。弥生～古墳・鎌倉～室町時代の遺跡が広がる高島A遺跡の西側隣接地であるが、遺構が全く確認できなかつたため、埋蔵文化財包蔵地外であると考えられる。





第15図 遺物実測図【試掘調査】(1/4)  
針原西遺跡(1~15) HS-04遺跡(16~19) 朴木C遺跡(20~26)



第16図 遺物実測図〔試掘調査〕(1/4)  
丹木C遺跡(27~34) 本田畠田遺跡(35・36)

第4表 出土遺物觀察表（試掘調査）

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第15回	1	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡 前田式	破片
	2	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡 前田式	破片
	3	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡	破片
	4	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡 前田式	破片
	5	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡 前田式	破片
	6	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡 前田式	破片
	7	7 T	縄文土器	深鉢				針原西遺跡 前田式	破片
	8	1 T	縄文土器	深鉢	27.5			針原西遺跡 外面塗付着 前田式	口1/7
	9	7 T	縄文土器	深鉢	34.1			針原西遺跡	口1/12
	10	7 T	縄文土器	深鉢		8.8		針原西遺跡	底1/8
	11	1 T	縄文土器	深鉢		9.9		針原西遺跡 葉脈文	底1/8
	12	1 T	縄文土器	深鉢		8.8		網代庄痕	底完存
	13	7 T	縄文土器	深鉢		9.5		針原西遺跡	底1/8
	14	7 T	縄文土器	深鉢		11.0		針原西遺跡	底3/16
	15	1 T	縄文土器 石製品	石錐	長5.6	短4.5	厚1.4	針原西遺跡 69 g	完形
第16回	16	4 T	土師器 高坏					H S - 0 4 遺跡	破片
	17	10 T	珠洲	壺(臺)				H S - 0 4 遺跡	破片
	18	4 T	伊万里	皿	11.6			H S - 0 4 遺跡	口1/12
	19	12 T	伊万里	仏飯器			3.4	H S - 0 4 遺跡	底3/4
	20	2 T	土師器	壺	14.0			朴木C 遺跡 外面塗付着	口1/8
	21	2 T	土師器	壺	15.5			朴木C 遺跡	口1/2
	22	2 T	土師器	壺	29.8			朴木C 遺跡	口1/4
	23	2 T	土師器	壺	16.7			朴木C 遺跡	口1/8
	24	2 T	土師器	壺	17.7			朴木C 遺跡 外面塗付着	口1/8
	25	4 T	土師器	壺	15.1			朴木C 遺跡	口1/4 体1/4
	26	2 T	土師器	壺	14.0			朴木C 遺跡	口1/6
	27	2 T	土師器	壺(臺)			5.1	朴木C 遺跡	底完存
	28	2 T	土師器	壺(臺)				朴木C 遺跡 外面塗付着	底完存
	29	4 T	土師器	壺(臺)			5.3	朴木C 遺跡 外面塗付着	底1/12
	30	4 T	土師器	壺(臺)			5.7	朴木C 遺跡	底完存
	31	4 T	土師器	高坏				朴木C 遺跡	破片
	32	4 T	土師器	高坏				朴木C 遺跡	破片
	33	1 T	須恵器	壺				朴木C 遺跡	口1/8
	34	2 T	須恵器	壺				朴木C 遺跡	破片
	35	1 T	中世土師器	皿	8.0			本田畠田遺跡	口1/3
	36	1 T	珠洲	壺				本田畠田遺跡 指頭庄痕	破片

□：口縁部 底：底部 体：体部 壁：坏部 脚：脚部

高島A遺跡〔3地区〕 図版1

1. 遺構全景  
(北西から)



2. 溝SD03C-C'  
(南東から)



3. 溝SD03・04  
全景 (南から)



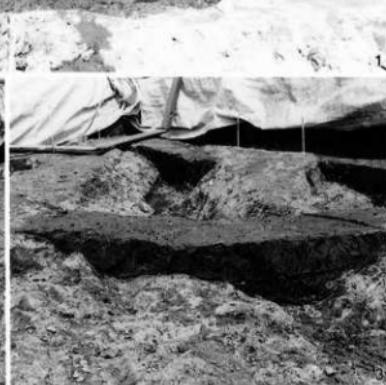
図版2 高島A遺跡〔4地区〕



1. 遺構全景  
(東から)



2. 溝SD02B-B'  
(東から)



3. 溝SD03D-D'  
(南から)



4. 土坑SK08  
(南から)

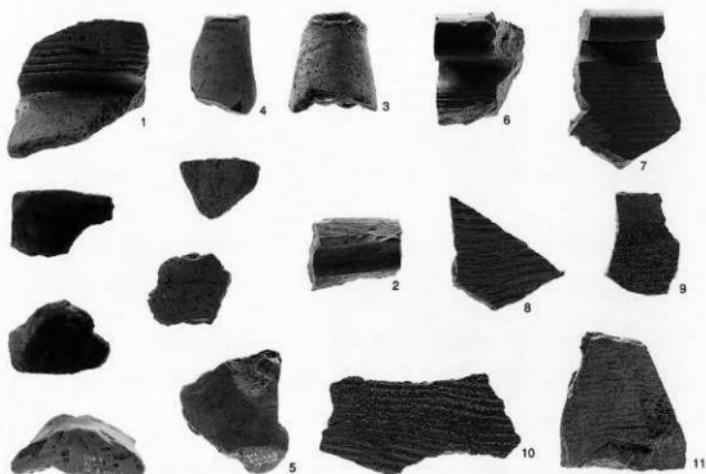


5. 溝SD09 (北から)  
遺物出土状況

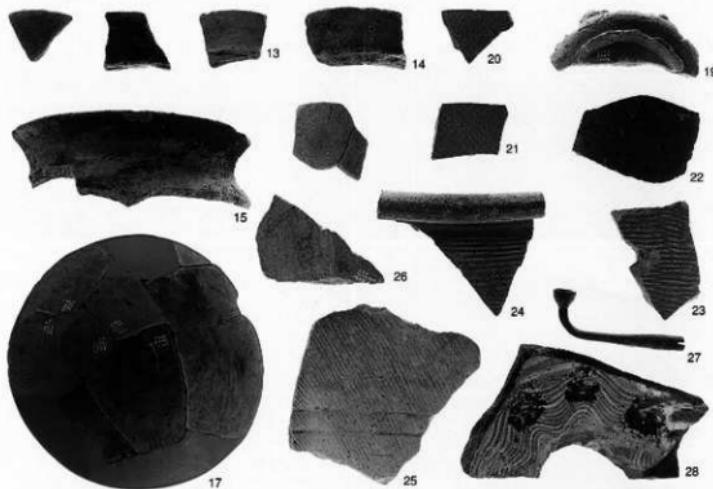
5

高島 A 遺跡〔3・4 地区〕 図版 3

出土遺物  
土器（3 地区）



土器・金属製品  
(4 地区)



図版4 高島A遺跡〔5地区〕



1. 遺構全景  
(南から)



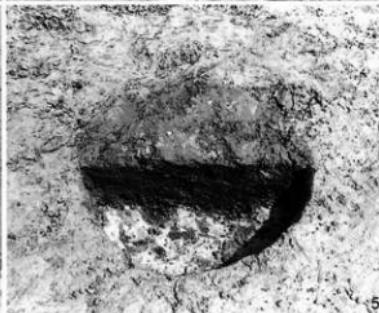
2. 溝SD01A-A'  
(南から)



3. 溝SD02J-J'  
(南から)



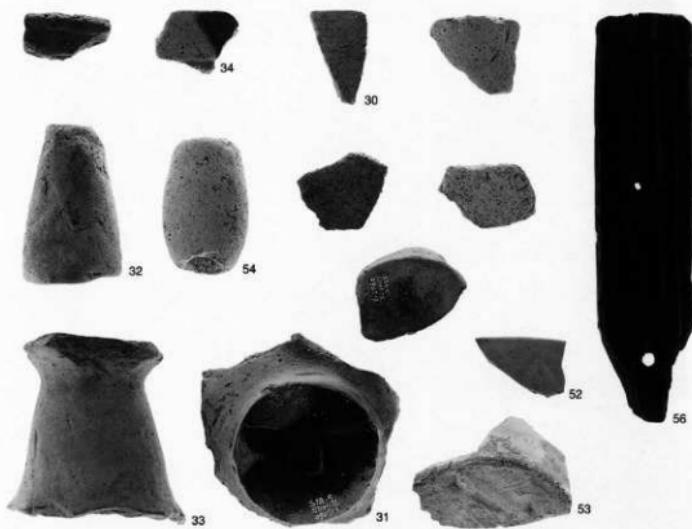
4. 土坑SK05  
(西から)



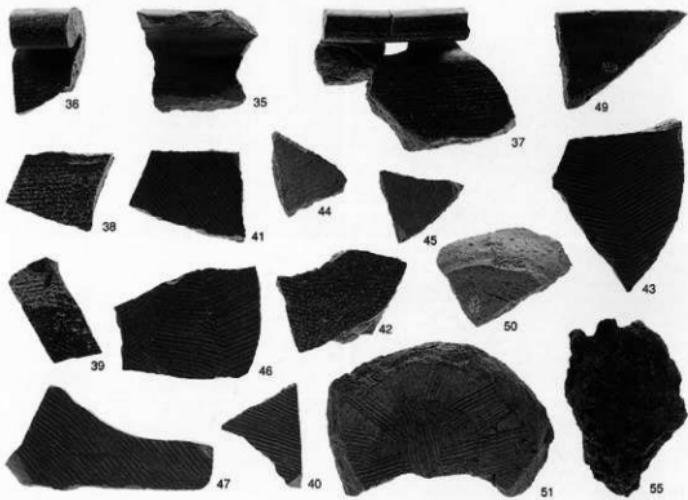
5. 土坑SK06  
(南から)

高島 A 遺跡〔5 地区〕 図版 5

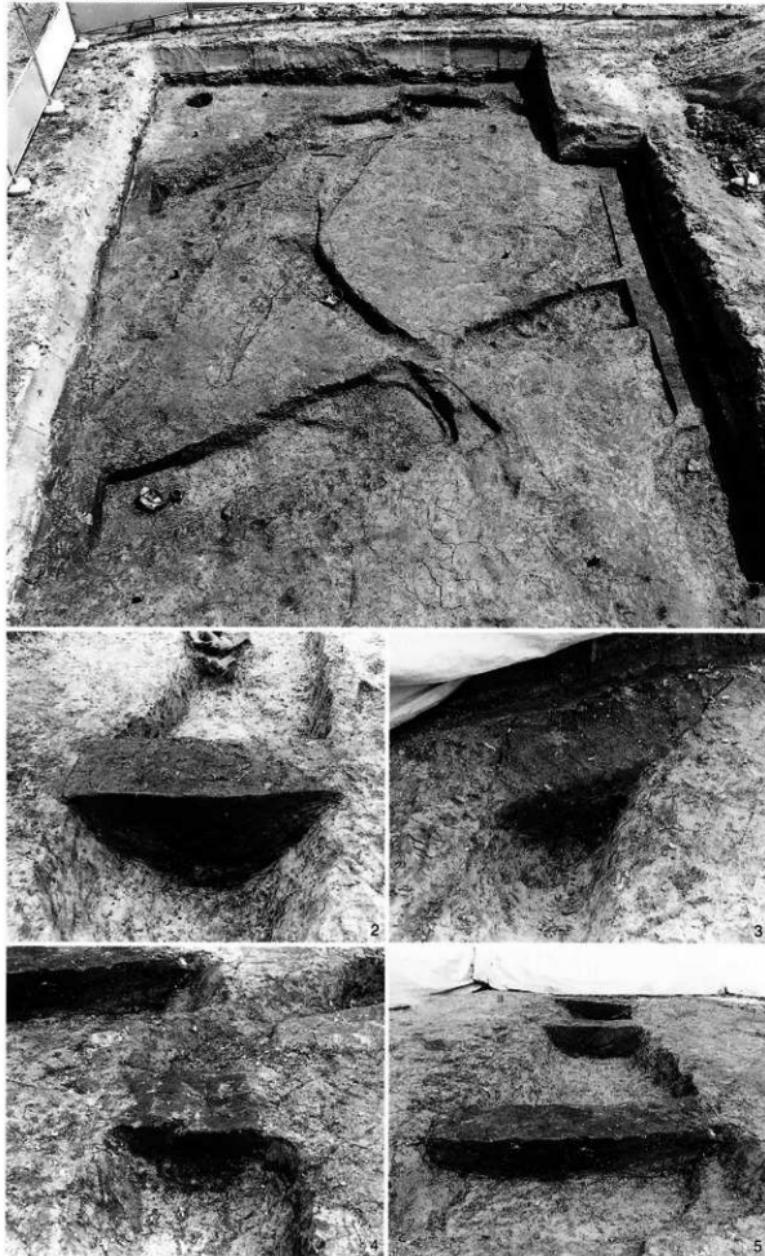
出土遺物  
土器・木製品



土器・鉄滓



図版6 高島A遺跡〔6地区〕



高島 A 遺跡 [6 地区] 図版 7

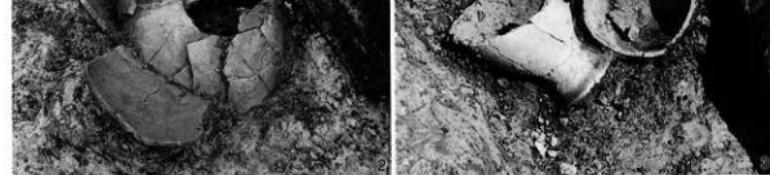
1. 溝SD01 (西から)  
遺物出土状況  
〔第10図57(左)  
58(右)〕



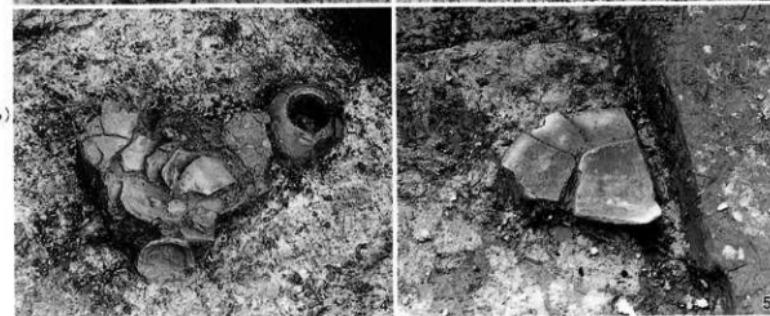
2. 同上 (南から)  
〔第10図58〕



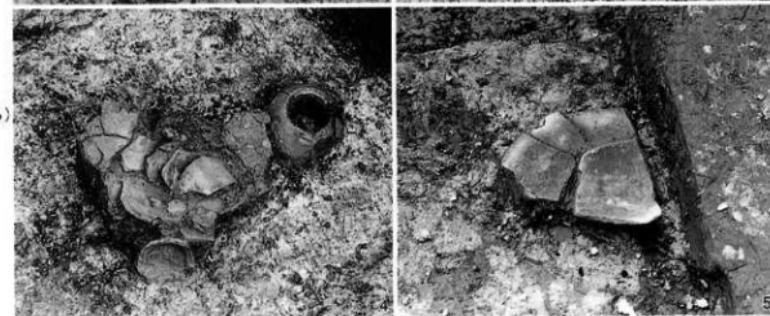
3. 溝SD06 (西から)  
遺物出土状況  
〔第10図62〕



4. 溝SD07 (西から)  
遺物出土状況  
〔第10図63・64〕

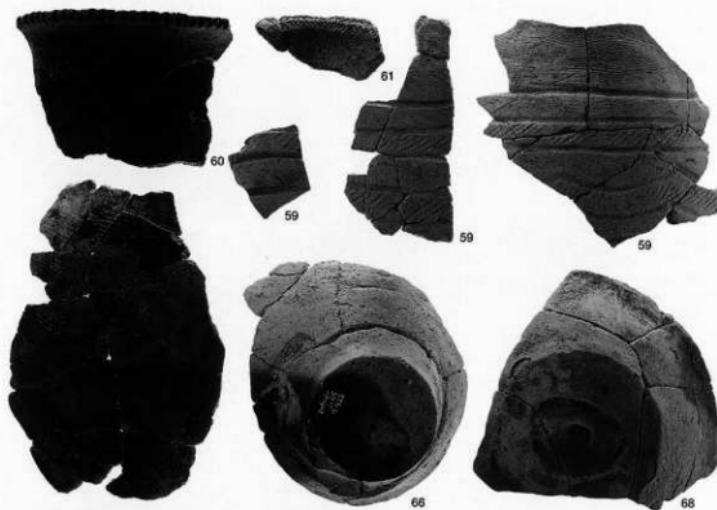


5. 土坑SK09 (北から)  
遺物出土状況  
〔第10図68〕



図版8 高島A遺跡〔6地区〕

出土遺物  
土器



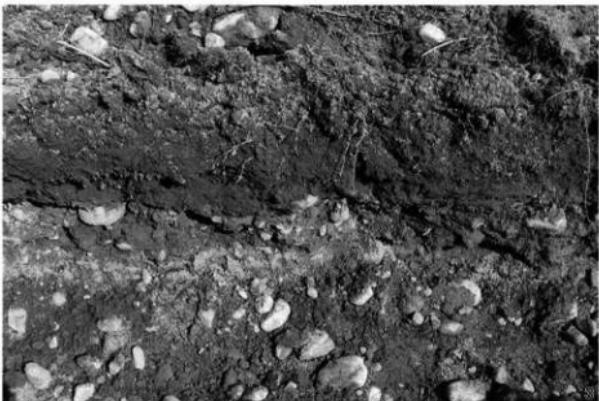
1. 土合地区遠景  
(南から)



2. 重機掘削状況  
(東から)



3. 137トレンチ土層断面  
(北から)



図版10 加茂社遺跡〔試掘調査〕

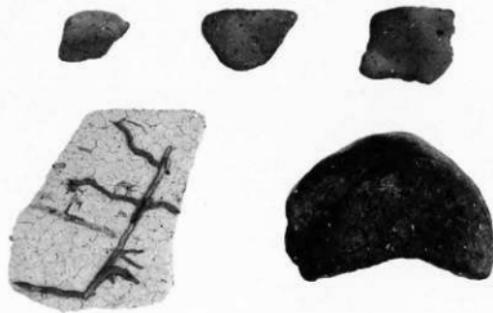


1. トレンチ掘削状況  
(北から)



2. 弥生溝の土層断面  
(西から)

3. 出土遺物  
土器



本田畠田遺跡〔試掘調査〕 図版 11

1. 対象地全景（北から）



1

2. 中世土坑の土層断面  
(東から)



2

3. 出土遺物  
土器



36

35

3

図版12 針原西遺跡〔試掘調査〕

1. 対象地全景（東から）



2. 1トレンチ掘削状況  
(西から)



3. 8トレンチ土層断面  
(東から)



朴木C遺跡〔試掘調査〕 図版 13

1. 対象地全景（西から）



2. 2 トレンチ遺物出土状況  
(北から)

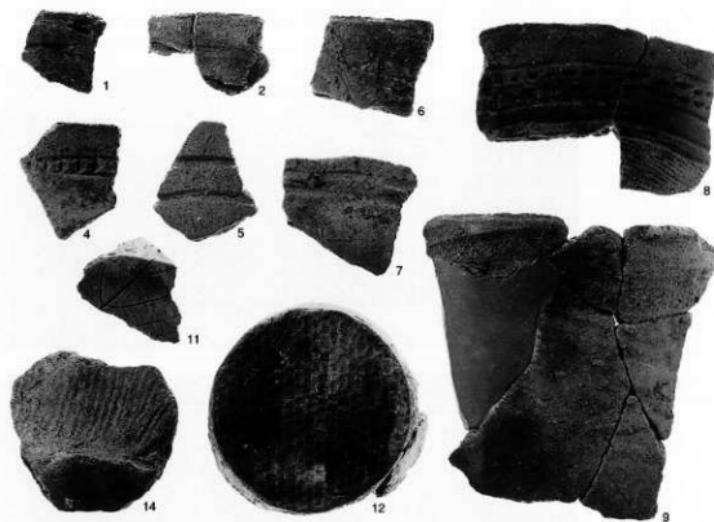


3. 4 トレンチ遺構完掘状況  
(西から)

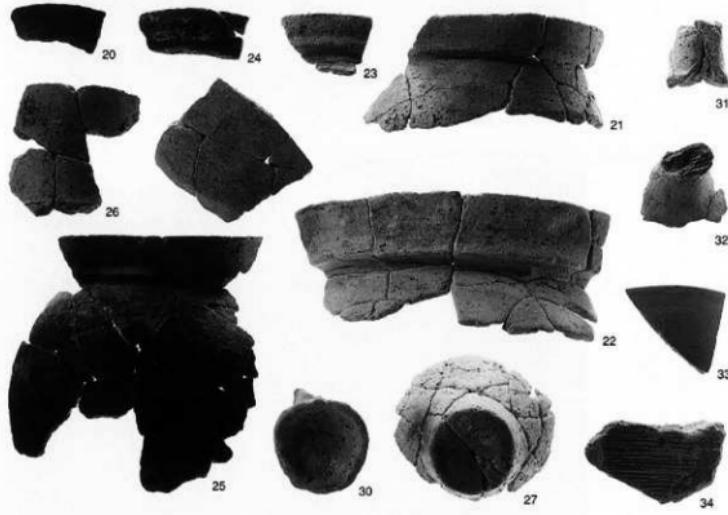


図版 14 試掘調査

針原西遺跡  
土器



朴木C遺跡  
土器



# 報告書抄録

ふりがな 書名		いみずしないいせきはっくつちょうさほうこくさん 射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ						
副書名		高島A遺跡本発掘調査・十合地区分布調査他						
編著者名		山中 明 金一津 英朗						
編集機関		射水市教育委員会						
所在地		〒933-0292 富山県射水市加茂中部893番地 TEL0766 59 8093						
発行年月日		西暦2011年1月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
高島A遺跡	富山県射水市 鏡宮弥生	16211 (16203)	027 (028)	36° 45° 14"	137° 05° 15"	平成21年度 20090514~ 20090601	83m <sup>2</sup>	個人専用 住宅建築
						平成21年度 20090514~ 20090605	67m <sup>2</sup>	
						平成21年度 20090625~ 20090723	117m <sup>2</sup>	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
高島A遺跡	集落 散居地	弥生(中期・後期) 縄文・室町時代	溝・土坑・井	弥生土器・土師器 須恵器・珠洲・八尾 青磁・瀬戸美濃 唐津・木製品				
要約	縄文～室町時代の区画溝の延長を確認し、珠洲・八尾・瀬戸美濃・青磁等が出上した。この人為的に掘削した溝によって区画された、在地領主等の屋敷地の存在が想定される。							

\* コード欄の( )内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

\* 試掘調査の抄録は第3表を参照する。

## 射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ

—高島A遺跡本発掘調査・土合地区分布調査他—

---

2011(平成23)年1月31日 発行

編集・発行 射水市教育委員会

〒933-0292

富山県射水市加茂中部 893 番地

TEL 0766-59-8093

印 刷 有限会社 山下印刷

---

